

### [3] 2008年1月岡山大学付属図書館所蔵絵図資料調査報告

Report on Survey of Coloration Materials in Pictorial Maps in the Collection  
of Okayama University Library

I 調査の概要と方法	杉本史子
II 絵図資料彩色材料科学的調査	吉田直人・早川泰弘・村岡ゆかり
III 赤外線撮影による調査報告	荒井経

#### I 調査の概要と方法

##### 1 調査の概要

調査日時 : 平成20年1月15日～18日

調査実施場所 : 岡山大学付属図書館5階 展示室および特殊資料閲覧室

##### 調査メンバー一覧

氏名	所属	担当
杉本史子	東京大学史料編纂所	統括
礪永和貴	東亜大学人間科学部	デジタルマイクロスコープ撮影
国木田明子	神戸市立博物館	書誌調査
早川泰弘	東京文化財研究所保存修復科学センター	科学的調査
富善一敏	東京大学大学院経済学研究科	内容検討
野積正吉	射水市新湊博物館	デジタルマイクロスコープ撮影
降旗千賀子	目黒区美術館	色料肉眼調査
村岡ゆかり	東京大学史料編纂所	科学的調査ポイント決定
吉田直人	東京文化財研究所保存修復科学センター	科学的調査
高島晶彦	東京大学史料編纂所	書誌調査
荒井 経	東京学芸大学	色料肉眼調査
中野 等	九州大学	内容検討

## 2 岡山調査の手順と基本線

杉本史子

20080115-8

### 1 調査内容

色料科学的調査、紙拵・書誌調査、内容調査

### 2 各絵図調査手順

早川調査（鉍物系色料）

吉田調査（有機系色料）

高精細画像撮影（野積、礒永他）

紙拵・書誌・改変後（高島他）・内容調査

### 3 色料調査点設定の基本線

○モチーフ別（村岡作成「岡山大調査項目表」）に網羅することが基本原則

○ただし、時間的制約があるため、全絵図について、カテゴリーA・B・C1、及びカテゴリーEの山のうち緑色に見える箇所から、最低限の調査点を指定する。

○これに加えて、各絵図の特質に応じて、調査点を附加。

カテゴリーA 地色・海・川・道・一里塚・郡境

カテゴリーB 城・古城

カテゴリーC1 村形色分け

C2 郡地色分け

C3 隣国色分け

カテゴリーE 山・樹木・建造物（城以外）

<カテゴリー分けの視点>色彩表現から見て、カテゴリーABが基本色系（シロ・クロ・アオ・アカ）で、カテゴリーCDは混色系で描かれる（図1・村岡表）

## II 科学的手法による彩色材料調査報告

### (1) 科学的調査の概要と分析結果

吉田直人・早川泰弘

1. 調査概要・調査方法
2. 蛍光X線分析結果(データ)
3. 蛍光X線分析結果まとめ
4. 可視反射スペクトル分析結果まとめ

### (2) 個別絵図の測定データ

吉田直人・早川泰弘(測定)・村岡ゆかり(編集)

資料番号	分類	表題	年代
1. T1-5	国絵図	備前国図	慶長年間
2. T1-16	国絵図	備前国九郡絵図	寛永年間
3. T1-18	国絵図	備前国絵図	正保2年
4. T1-20-1	国絵図	備前国絵図	元禄13年
5. T1-30	国絵図	備中国絵図	寛永年間
6. T1-34	国絵図	備中国之内上房郡川上郡阿賀郡哲多郡四郡之絵図	年不明

\*ただし、T1-16 および T1-34 については、XRF は実施していない。

※本報告書は、東京文化財研究所保存修復科学センター主任研究員吉田直人・分析科学研究室長早川泰弘両氏によって作成された『岡山大学附属図書館所蔵資料の彩色材料調査結果報告』(2008年9月5日)を元に、東京大学史料編纂所技術専門職員村岡ゆかりによるデータ編集・色料推定、および荒井経による赤外線調査報告を加えたものである。なお、紙数の制約のためグラフ等の数値が判読困難な箇所については、第I部別添CD-ROMのデータを参照のこと。

## (1)科学的調査の概要と分析結果

### 1. 調査概要・調査方法

調査概要 : 2006～2009 年度科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築-前近代地図データ集積・公開のために-」(研究代表者 東京大学史料編纂所准教授・杉本史子)の研究の一環として、岡山大学附属図書館に所蔵されている江戸期絵図資料(池田家文庫コレクション)の彩色材料を蛍光X線分析法(XRF)、可視反射スペクトル測定法およびデジタル顕微鏡により調査した。

測定機器および条件

#### 【蛍光X線分析法】

- 測定機器 : ハンディ型蛍光X線分析装置 EDAX 製 XT-35  
 制御用ノート型 PC (WindowsXP および制御ソフトウェア搭載)
- 測定条件 : ・ X 線管球 : Re(レニウム)  
 ・ 管電圧、管電流 : 35kV、8 $\mu$ A  
 ・ X 線照射径、照射時間 : 約  $\phi$ 5mm、100～200 秒  
 ・ 照射距離 : 約 1 cm

#### 【可視反射分光スペクトル測定法】

- 測定機器 : 下記の構成からなる可視反射分光スペクトル測定システム
- ・ 分光光度計 大塚電子製 MCPD-7000
  - ・ 外部光源 同 MC-2530 (ハロゲンランプ)
  - ・ 石英製 Y 字型光ファイバー (長さ 3m、照射・受光部は同軸)
  - ・ 制御用ノート型 PC (Windows2000 および制御ソフトウェア搭載)
- 測定条件
- ・ 測定波長 : 360～800 nm (波長分解能 1.25 nm)
  - ・ 測定時間 : 150 ミリ秒 (20 回繰り返し測定の平均値)
  - ・ 照射距離 : 約 1 cm
  - ・ 照射径 : 約 3 mm
  - ・ 白色校正 : セラミック製標準白色板を使用

#### 【デジタル顕微鏡画像撮影】

- 測定機器 : キーエンス デジタルマイクロスコープ VHX-100
- 測定条件
- ・ 倍率 : 25 倍(視野 9 mm  $\times$  12 mm)  
 および 175 倍(視野 1.5 mm  $\times$  2 mm)
  - ・ 画像保存 : 画像を JPEG フォーマットにて保存

		2 岡山大学附属図書館所蔵 国絵図の蛍光X線分析結果							
【備前国図 T1-5】									
測定No.	測定部位	色	蛍光 X 線 強 度 (cps)						
			カルシウム (Ca-K $\alpha$ )	鉄 (Fe-K $\alpha$ )	銅 (Cu-K $\alpha$ )	亜鉛 (Zn-K $\alpha$ )	金 (Au-L $\beta$ )	水銀 (Hg-L $\beta$ )	鉛 (Pb-L $\beta$ )
01	地色	—	0.4						
02	海	水	0.4						
03	波紋	青	0.5						
04	川	薄青	0.6						
05	道	赤	0.2					3.6	
06	郡境	黒	0.3						
07	山	緑			16.9				
08	岡山城(屋根)	青	0.6	0.5	10.5			0.4	0.3
09	岡山城(壁)	白	0.6	0.2	2.0			0.5	
10	児嶋湾の防波堤	赤茶							4.5
11	村形(三野)	赤茶						12.7	0.4
12	村形(津高)	水	0.7						
13	村形(赤坂)	暗赤	0.2		0.3			12.8	0.3
14	村形(石生)	黄	0.8					0.2	
15	村形(和気)	橙	0.7					1.5	
16	村形(上東)	薄緑	0.3	0.4	22.1				
17	村形(邑久)	白	0.3						
18	村形(上道)	桃	0.7					2.0	17.6
19	村形(児島)	白	1.0						0.3
20	地(三野)	薄橙	0.4					0.6	
21	地(津高)	白	0.4						
22	地(赤坂)	赤茶	0.5						
23	地(石生)	薄赤	0.5					1.9	
24	地(和気)	水	0.7						
25	地(上東)	薄茶	0.4					2.5	0.4
26	地(邑久)	黄	0.4						
27	地(上道)	薄灰	0.7						
28	地(児島)	橙							5.7
29	道	赤茶			0.3			1.5	5.2
30	海	青	0.6						
31	地(上東)	茶	0.7					2.9	0.5

【備前国絵図 T1-18】									
測定No.	測定部位	色	蛍光 X 線強度 (cps)						
			カルシウム (Ca-K $\alpha$ )	鉄 (Fe-K $\alpha$ )	銅 (Cu-K $\alpha$ )	亜鉛 (Zn-K $\alpha$ )	金 (Au-L $\beta$ )	水銀 (Hg-L $\beta$ )	鉛 (Pb-L $\beta$ )
01	地色	一							
02	海	青							
03	川	青							
04	道	赤						2.3	
05	一里塚	黒			0.3			0.2	
06	郡境	黒							
07	山	薄緑		0.1	3.5				
10	村形(三野)	黄土	0.2	0.2	0.1			0.7	1.2
11	村形(津高)	水	0.4	0.1	0.2				
12	村形(赤坂)	黄							
13	村形(岩生)	桃	0.2					0.3	0.8
14	村形(和気)	水	0.1						
15	村形(上東)	桃	0.1						
16	村形(邑久)	黄	0.2	0.2					
17	村形(上道)	灰緑			0.3			0.2	
18	村形(児島)	薄緑		0.2	6.6				
19	播磨	黄	0.2						
20	美作	黄							
21	備中	薄白	0.2						
22	美作(付箋)	桃	0.9	0.2					1.8
23	海(付箋)	濃青		0.2					
24	樹木	青			1.5				
25	樹木(幹)	茶			1.9			0.7	

【備前国絵図 T1-20-1】									
測定No.	測定部位	色	蛍光 X 線 強 度 (cps)						
			カルシウム (Ca-K $\alpha$ )	鉄 (Fe-K $\alpha$ )	銅 (Cu-K $\alpha$ )	亜鉛 (Zn-K $\alpha$ )	金 (Au-L $\beta$ )	水銀 (Hg-L $\beta$ )	鉛 (Pb-L $\beta$ )
01	地色	一							
02	海	青	0.1						
03	川	青							
04	道	赤						3.2	
05	一里塚	黒							
06	郡境	黒							
07	山	薄緑							
08	山	橙							
09	山	黒							
10	樹木(葉)	緑							
11	樹木(葉)	橙							
12	樹木(葉)	青							
13	樹木(葉)	緑			0.5				
14	樹木(葉)	薄黒							
15	樹木(幹)	茶						0.2	
16	樹木(幹)	黒							
19	建造物(屋根)	薄茶							
20	建造物(柱)	茶						0.2	
21	村形(三野)	桃	0.5						2.3
22	村形(津高)	黄土	0.3						
23	村形(赤坂)	薄緑			14.1				
24	村形(岩生)	灰茶	0.1						2.2
25	村形(和気)	肌	0.3						1.1
26	村形(邑久)	赤						7.3	
27	村形(上道)	桃	0.4						
28	村形(児島)	薄緑	0.2						0.5
29	国(播磨)	薄緑	0.3		11.1				
30	国(美作)	黄	0.3	0.5					
31	国(備中)	桃	0.4						
32	山	青							

【備中国絵図 T1-30】									
測定No.	測定部位	色	蛍光 X 線強度 (cps)						
			カルシウム (Ca-K $\alpha$ )	鉄 (Fe-K $\alpha$ )	銅 (Cu-K $\alpha$ )	亜鉛 (Zn-K $\alpha$ )	金 (Au-L $\beta$ )	水銀 (Hg-L $\beta$ )	鉛 (Pb-L $\beta$ )
01	紙地	—		0.3					
02	海	濃青	0.2	0.4	19.6	2.3			0.7
03	川	濃青	0.2	0.7	23.7	2.9			1.2
04	道	赤	0.5	0.3				10.3	
05	一里塚	黒	0.3	0.1				2.1	
06	郡境	金	0.2	0.3	5.7		2.9	2.0	
07	山	緑	0.2	0.7	20.4				
08	城(古城)	金		0.6			1.6		
10	村形(哲多)	白	0.8	0.3					
14	村形(岩生)	水	1.2	0.3					
15	村形(後月)	黄	0.7	0.3					
16	村形(小田)	白	0.9	0.3					
17	村形(浅口)	桃	0.7	0.2				1.8	
18	村形(下道)	茶橙	0.3	0.2	0.6			2.0	12.6
19	村形(窪屋)	白	0.8	0.3					
20	村形(都宇)	赤		0.3				12.5	



### 3<XRF分析結果に関するコメント>

#### 【慶長備前国絵図 T1-5】

- ・ 白色材料はCa系顔料(胡粉)である。
- ・ 赤色の道(No.05)および薄赤色(No.23)からはHgが検出され、Hg系赤色顔料(辰砂)が使われていると思われる。Ca系白色顔料との存在比率の違いによって赤色の色調が異なっている。No.15の橙色部分の検出シグナルはNo.23とほとんど同じである。蛍光X線では検出できない材料により色調の変化がもたらされていることがわかる。
- ・ 赤色、桃色さらには茶色にはいくつかの色調が確認できる。No.11、13、25、29、31ではHg、PbおよびCaが検出されており、それらの塗り重ねおよび存在比率によって色調を変化させている。No.10ではPbだけしか検出されていない。
- ・ 黄色部分(No.14、26)では微量のCaが検出されているだけである。有機染料による着色の可能性が高い。
- ・ 海(No.2、3、30)、川(No.4)の青色部分からは少量のCaが検出されているだけである。有機染料が使われていると考えられる。
- ・ 山の緑色(No.07)、村形の薄緑色(No.16)からはCuが検出されており、Cu系緑色顔料(緑青)が使われている。
- ・ 青色の屋根(No.08)からはCuが検出されており、Cu系青色顔料(群青)が使われている。

#### 【正保備前国絵図 T1-18】

- ・ 白色材料はCa系顔料(胡粉)である。
- ・ 道(No.4)の赤色部分からはHgが検出され、Hg系赤色顔料(辰砂)が使われていると思われる。
- ・ 桃色部分(No.13、22)ではPbとCaが検出されている。Pb系赤色顔料(鉛丹)とCa系白色顔料(胡粉)の併用が考えられる。
- ・ 茶色部分(No.25)ではHgが検出された。Hg系赤色顔料(辰砂)による発色が利用されている。
- ・ 黄色部分(No.12、16、19、20)では微量のCa、Feが検出されているだけである。CaあるいはFeが検出されていない箇所もあるが、黄色の着色は有機染料によるものであると考えられる。
- ・ 薄緑色部分(No.07、18)ではCuが検出されており、Cu系緑色顔料(緑青)が使われていると思われる。
- ・ 灰緑色部分(No.17)ではCuとHgが検出されており、緑色顔料と赤色顔料を併用している可能性がある。
- ・ 海(No.2、23)、川(No.3)の青色部分からは特徴的な元素はほとんど検出されず、有機染料が使われていると考えられる。
- ・ 村形の水色(No.11、14)についても、第一主成分はCaであり、Ca系白色顔料(胡粉)に青色染料による着色が行われていると思われる。
- ・ 木の葉の青色(No.24)からはCuが検出されており、Cu系青色顔料(群青)が使われている。

#### 【元禄備前国絵図 T1-20-1】

- ・ 白色材料はCa系顔料(胡粉)である。
- ・ 赤色の道(No.4)、村形(No.26)からはHgが検出され、Hg系赤色顔料(辰砂)が使われていると思われる。
- ・ 桃色(No.21)および肌色(No.25)ではPbとCaが検出されている。Pb系赤色顔料(鉛丹)とCa系白色顔料(胡粉)の併用が考えられる。一方、No.27、30の桃色からはCaが検出されるだけであり、Pb系赤色顔料が使われていないことがわかる。
- ・ 茶色部分(No.15、20)ではHgがわずかに検出された。Hg系赤色顔料(辰砂)による発色が利用されている。
- ・ 黄色部分(No.30)では微量のCa、Feが検出されている。黄土が利用されている可能性もあるが、その特定は困難である。
- ・ 薄緑色の村形(No.23、29)からはCuが顕著に検出され、Cu系緑色顔料(緑青)が使われていることがわかる。
- ・ 海(No.2)、川(No.3)の青色部分からは特徴的な元素はほとんど検出されず、有機染料が使われていると考えられる。
- ・ 木の葉の緑色(No.10、)青色(No.12)や薄緑色の村形(No.28)、山の青色(No.32)からは特徴的な元素は何も検出されず、顔料が使われていないことがわかる。No.28からはPbが検出されているが、その由来は不明である。

## 【寛永備中国絵図 T1-30】

- 白色材料はCa系顔料(胡粉)である。
- 赤色の道(No.4)、村形(No.20)からはHgが大量に検出され、Hg系赤色顔料(辰砂)が使われていると思われる。桃色(No.17)の発色もHg系赤色顔料(辰砂)によるものである。
- 赤茶色(No.18)からは大量のPbと、少量のHgおよびCa、Feなどが検出されている。
- 黄色部分(No.15)では微量のCaとFeが検出されているだけである。有機染料による着色の可能性が高い。
- 海(No.2)、川(No.3)の濃青色部分からはCuが大量に検出されるとともに、ZnおよびPbが少量検出された。Cu系青色顔料(群青)が使われていると考えられるが、ZnおよびPbの由来が不明である。特徴的な材料および着色方法の一つとして位置づけられる。
- 山の緑色(No.07)ではCuが検出されており、Cu系緑色顔料(緑青)が使われている。ZnおよびPbは、ここからは検出されない。
- 郡境(No.06)や古城(No.08)にはAuが使われている。

## 4<可視反射分光スペクトル測定結果に関するコメント>

蛍光 X 線分析結果から、染料のみ、または胡粉+染料と推測された箇所について、可視反射分光スペクトルから得られた染料に関する知見を述べる。

胡粉以外の顔料と染料が併用されていると考えられる箇所については、スペクトルでの染料特定は困難であるため、今回は記していない。

### [T1-5 備前国図（慶長）]

#### 青色および水色について

- ・ 海(No. 2, 3, 30)、川(No. 4)、および村形(津高 No. 12) および地(和気 No. 24)は、スペクトルの特徴から、藍などの indigo を主成分とした染料が使用されていると考えられる。

#### 黄色について

- ・ 村形(石生 No. 14)、および地(邑久 No. 26)は黄色染料のガンボージまたは鬱金が使用されている可能性がある。また、XRF では成分元素が検出されていないものの、顔料である黄土のスペクトルも類似しており、現時点では判断が困難である。

### [T1-18 備前国図（正保）]

#### 青色および水色について

- ・ 海(No. 2, 23)、川(No. 3)、村形(津高 No. 11、和気 No. 14) は indigo を主成分とした染料が使用されていると考えられる。

#### 黄色について

- ・ 村形(赤坂 No. 12)、および地色(播磨 No. 19) はガンボージ、鬱金、または黄土のいずれかが使用されている可能性がある。
- ・ 村形(邑久 No. 16)および地色(美作 No. 20) は、ガンボージおよび黄土のスペクトルに類似しているため、そのどちらかである可能性が高い。

#### 桃色について

- ・ 村形(上東 No. 15)では、XRF でカルシウム以外検出されなかったため、染料の可能性を検討した。しかし、スペクトルが類似する染料は現在のところ見出せていない。

### [T1-20-1 備前国図（元禄）]

#### 青色について

- ・ 海(No. 2)および川(No. 3)は indigo を主成分とした染料が使用されていると考えられる。
- ・ 木の葉(No. 12)および山(No. 32)についても、indigo の特徴がみられるが、この2点については、地色の影響がスペクトルに強く表れており、正確な判断は難しい。

#### 緑色について

- ・ 山(No. 7)および村形(児島 No. 28)は、indigo 系青色染料と黄色彩色材料(ガンボージ、鬱金または黄土と考えられる)による混色の可能性が高い。
- ・ 樹木の葉(No. 7)では、緑色が薄く、濃い地色の影響がスペクトルに非常に強く表れたこ

とから、判断は不可能である。

#### 桃色について

- ・ 村形(上道 No. 27)では、XRF でカルシウム以外検出されなかったため、染料の可能性を検討した。しかし、スペクトルが類似する染料は現在のところ見出せていない。

#### [T1-30 備中国図(寛永)]

##### 水色について

- ・ 村形(岩生 No. 14)は indigo を主成分とした染料によるものと考えられる。

##### 黄色について

- ・ 村形(後月 No. 15)ははガンボージ、鬱金、または黄土のいずれかが使用されている可能性がある。

## ( 2 ) 個別絵図の測定データ

### 【絵図色料調査データ 凡例】

**ポイントNo./モチーフ** : 測定ポイント・モチーフごとにナンバーを付した。

**色**: 肉眼で見たときに認識される色を示す。

**推定顔料名**: 肉眼観察・拡大画像・科学的調査の結果をうけて推定される顔料をしめす。

**絵図(部分)**: 図中の白丸は、測定対象のおおよその位置を示す。

なお、厳密にすべての撮影データが同一の箇所を対象としたものではない。

×25(キーエンス): キーエンス デジタルマイクロスコープ VHX-100による対象モチーフの25倍撮影画像

×100(ピーク): 計測顕微鏡(ピーク・ワイド・スタンド・マイクロスコープ×100 東海産業社製)による撮影画像。

×175(キーエンス): キーエンス デジタルマイクロスコープ VHX-100 による対象モチーフの175倍撮影画像

**赤外線写真**: 赤外線写真は、SONY 社製 CyberShot に IR80 フィルターを装着し、night shot モードで撮影した。

**可視反射スペクトル**: 分光光度計 大塚電子製 MCPD-7000 による測定結果。(測定条件など詳細は調査概要参照)

彩色材料はその種類によって特異的な可視光の吸収及び反射特性を有する。

その特性を波長と反射率の関係としてプロットしたものが可視反射スペクトルである。グラフでは、横軸が波長で縦軸が反射率を示す。

**蛍光 X 線スペクトル**: EDAX 製 XT-35 による蛍光 X 線分析の結果を右の表に掲載。

得られた蛍光 X 線スペクトルと、検出された元素の検出強度を示した。

スペクトルの横軸は蛍光 X 線のエネルギーを示し、縦軸は、検出強度を示す。


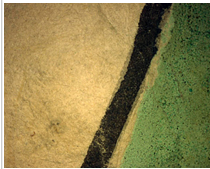
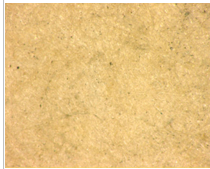
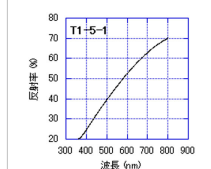
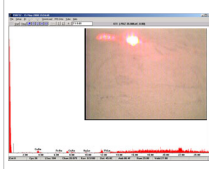
写真は測定箇所付近を撮影したもの。測定ポイントは、レーザーポインターによる照射位置の右方約 10mm で、直径約 7mm の領域である。

## 備前国図(資料番号 T1-5)の測定ポイント

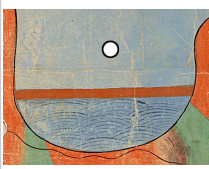
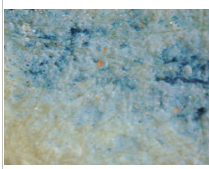
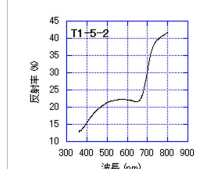
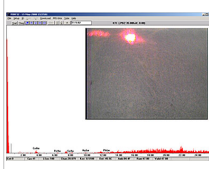


No	部位	色	No	部位	色
1	地色	—	16	村形(上東)	薄緑
2	海	水	17	村形(邑久)	白
3	波紋	青	18	村形(上道)	桃
4	川	薄青	19	村形(児島)	白
5	道	赤	20	地(三野)	薄橙
6	郡境	黒	21	地(津高)	白
7	山	緑	22	地(赤坂)	赤茶
8	岡山城(屋根)	青	23	地(石生)	薄赤
9	岡山城(壁)	白	24	地(和気)	水
10	児嶋湾の防波堤	赤茶	25	地(上東)	薄茶
11	村形(三野)	赤茶	26	地(邑久)	黄
12	村形(津高)	水	27	地(上道)	薄灰
13	村形(赤坂)	暗赤	28	地(児島)	橙
14	村形(石生)	黄	29	道	赤茶
15	村形(和気)	橙	30	海	青
			31	地(上東)	茶

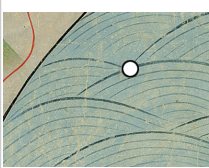
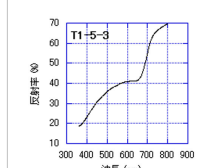
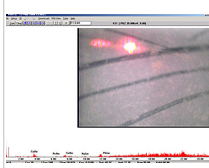
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	1	モチーフ	地色	色	紙地	推定顔料名	色なし
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.	肉眼・175倍顕微鏡写真の観察で紙色を確認。蛍光X線分析は、主成分が検出されなかったことから、色なしと推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



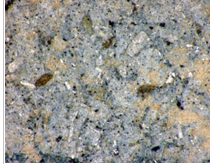
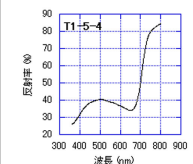
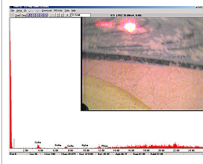
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	2	モチーフ	海	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.	肉眼で水色、100倍顕微鏡の観察で白色と青色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分: Ca
		2008/01/16撮影			2008/01/16測定	2008/01/16測定	

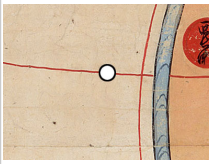


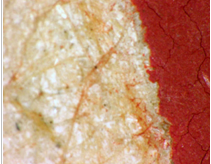
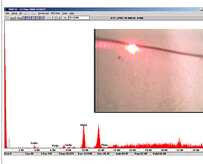
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	3	モチーフ	波紋	色	青色	推定顔料名	藍か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.	肉眼で青の色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分: 検出せず Caは海の色への反応か
					2008/01/17測定	2008/01/17測定	



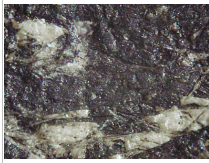
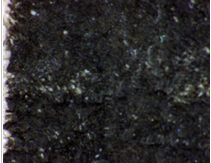
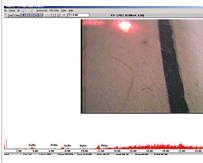
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	4	モチーフ	川	色	薄青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色、175倍顕微鏡写真の観察で白色と青色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出され、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	5	モチーフ	道	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色、100倍顕微鏡と175倍の顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にHg元素が検出されたことから、朱と推定した。



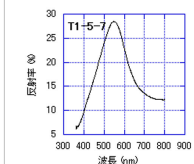
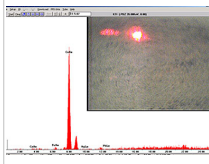
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし	画像なし		主成分:Hg
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	白く反応		2008/01/16測定	

絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	6	モチーフ	境界線	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼・100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。


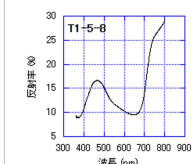
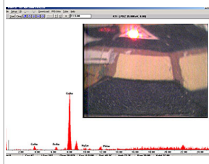
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし	画像なし		主成分:検出せず Caは地の色の反応か
	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影			2008/01/17測定	




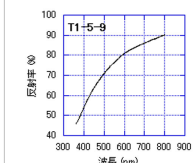
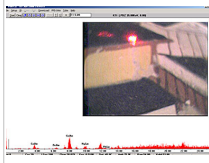
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	7	モチーフ	山		色	緑色	推定顔料名	緑青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.			
肉眼・100倍顕微鏡で緑色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCu元素が検出されたことから、緑青と推定した。								

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Cu Caは無反応
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	

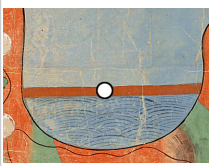

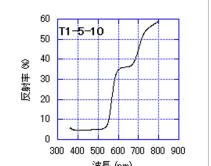
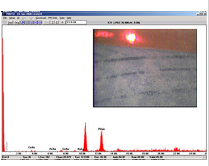
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	8	モチーフ	城(屋根)		色	青色	推定顔料名	群青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.			
肉眼で青色、100倍顕微鏡で青色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCu元素が検出されたことから、群青と推定した。								

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分:Cu 岡山城
				黒く反応	2008/01/17測定	2008/01/17測定	




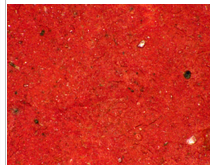
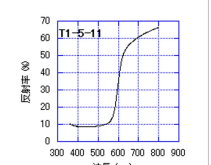
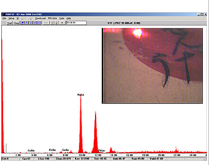
絵図名	T1-5 備前国絵図 慶長年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	9	モチーフ	城(壁)		色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.			
肉眼・100倍顕微鏡で白色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、胡粉と推定した。								

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分:Ca 岡山城 Hgは柱、Cuは屋根の反応か
					2008/01/17測定	2008/01/17測定	

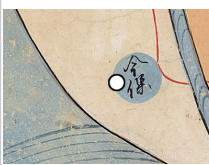


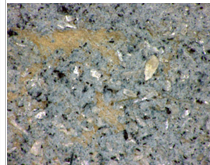
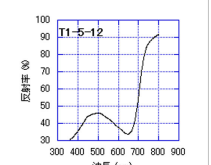
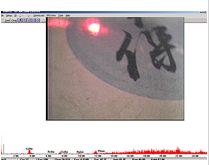
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	10	モチーフ	児嶋湾の防波堤	色	赤茶色	推定顔料名	丹+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で茶色、100倍顕微鏡の観察でオレンジ色の粒子と黒色を確認。蛍光X線分析は、主にPb元素が検出されたことから、丹と墨の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Pb 彩色は一番上
		2008/01/15撮影			2008/01/16測定	2008/01/16測定	



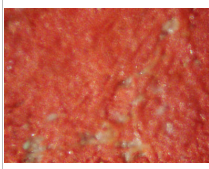
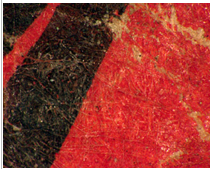
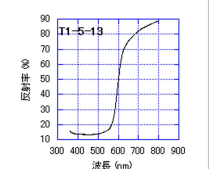
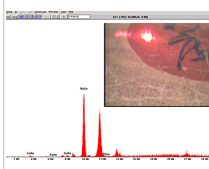
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	11	モチーフ	村形(三野郡)	色	赤茶色	推定顔料名	朱+丹
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にHgとPb元素が検出されたことから、朱と丹の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Hg 少量成分:Pb
	2008/01/16撮影	2007/01/17撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	





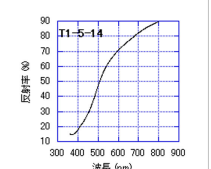
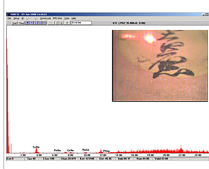
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	12	モチーフ	村形(津高郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色、100倍と175倍の顕微鏡観察で白色と青色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出され、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/16撮影	2007/01/17撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

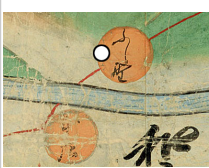
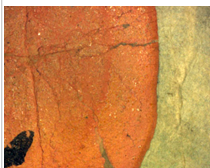
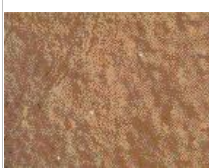

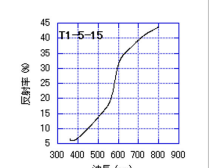
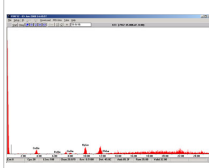
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	13	モチーフ	村形(赤坂郡)	色	暗赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にHg元素が検出されたことから、朱と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Hg
	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	


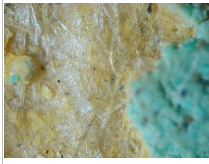
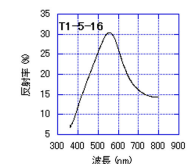
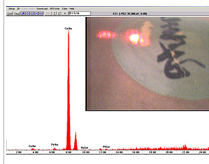
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	14	モチーフ	村形(岩生郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察で白色と黄色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



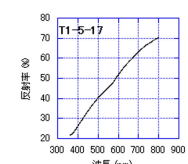
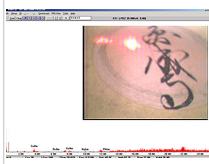
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	15	モチーフ	村形(和気郡)	色	オレンジ色	推定顔料名	朱+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼でオレンジ色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、黄色と白色を確認。蛍光X線分析は、主にHgとCa元素が検出されたことから、朱と藤黄と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Hg 少量成分: Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

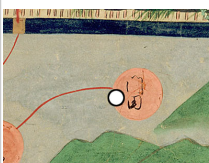

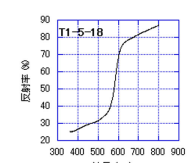
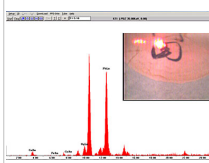
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	16	モチーフ	村形(上東郡)	色	薄緑色	推定顔料名	藤黄地に緑青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で緑色、100倍顕微鏡の観察で緑色の粒子とその下に黄色を確認。蛍光X線分析は、主にCu元素が検出されたことから、藤黄地に緑青と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Cu
		2008/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	



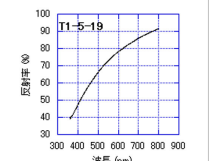
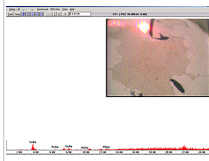
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	17	モチーフ	村形(邑久郡)	色	薄桃色	推定顔料名	臘脂+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄桃色、100倍顕微鏡の観察で白色と桃色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、臘脂と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Ca
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	

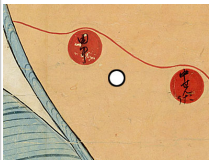



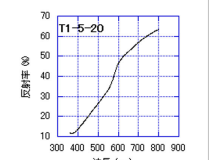
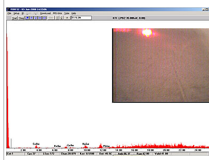
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	18	モチーフ	村形(上道郡)	色	桃色	推定顔料名	丹の上に朱+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡の観察でオレンジ色の地に白色と桃色を確認。蛍光X線分析は、主にCaとHgとPb元素が検出されたことから、丹の上に朱+胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Pb 少量成分:Hg 少量成分:Ca
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	



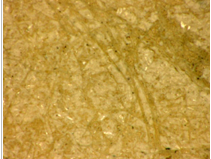
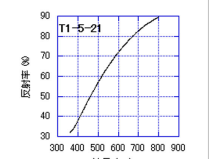
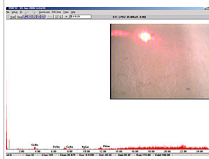
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	19	モチーフ	村形(児島郡)	色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で白色、100倍顕微鏡の観察で白色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、胡粉と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Ca
		2008/01/15撮影			2008/01/16測定	2008/01/16測定	




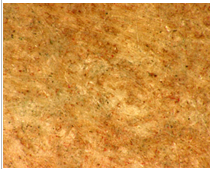
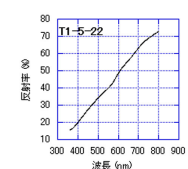
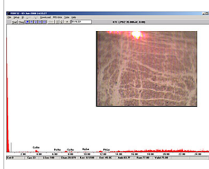
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	20	モチーフ	地(三野郡)	色	薄オレンジ色	推定顔料名	朱+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄オレンジ色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察で朱色の粒子、白色と黄色を確認。蛍光X線分析は、主にHgとCa元素が検出されたことから、朱と藤黄と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Hg 少量成分:Ca
	2008/01/16撮影	2007/01/17撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

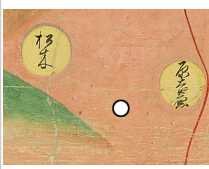
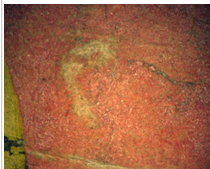
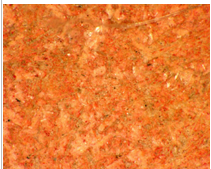
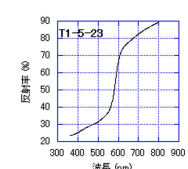
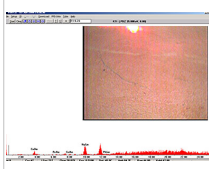
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	21	モチーフ	地(津高郡)	色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で白色、175倍顕微鏡写真で白色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、胡粉と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Ca
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

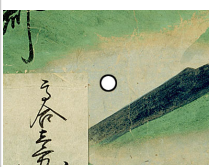


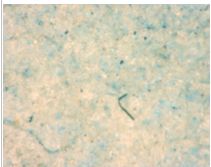
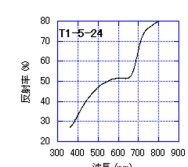
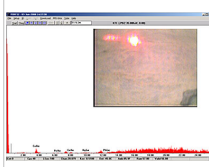
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	22	モチーフ	地(赤坂郡)	色	赤茶色	推定顔料名	臙脂+胡粉+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤茶色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で白色と桃色と黒色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、臙脂と墨と 胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

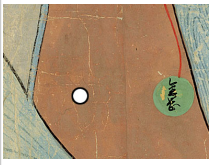

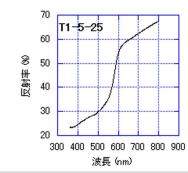
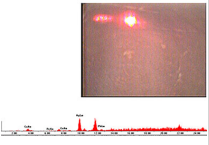
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	23	モチーフ	地(岩生郡)	色	薄赤色	推定顔料名	朱+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は、主にHgとCa元素が検出されたことから、朱と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Hg 少量成分:Ca
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



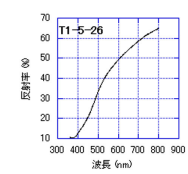
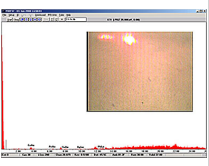
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	24	モチーフ	地(和気郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2008/01/17	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色、100倍顕微鏡・175倍顕微鏡写真の観察で白色と青色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

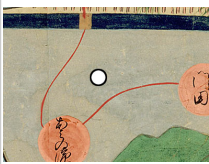
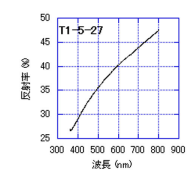
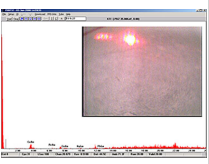
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	25	モチーフ	地(上東郡)	色	薄茶色	推定顔料名	朱+丹+胡粉+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄赤色、100倍顕微鏡の観察で赤色の粒子、白色と黒色を確認。蛍光X線分析は、主にPbとHgとCa元素が検出されたことから、朱と丹と胡粉と墨の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分: Hg 少量成分: Pb 少量成分: Ca
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	



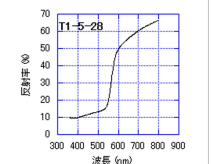
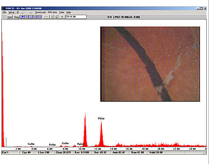
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	26	モチーフ	地(邑久郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡の観察で白色と黄色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分: Ca
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	


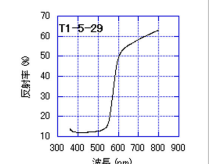
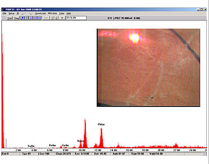
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	27	モチーフ	地(上道郡)	色	薄灰色	推定顔料名	墨+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄灰色、蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、墨と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分: Ca
					2008/01/17測定	2008/01/17測定	

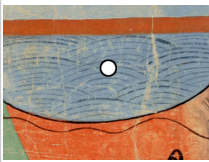
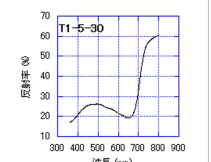
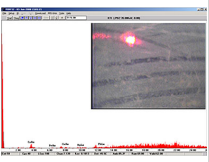
絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	28	モチーフ	地(児島郡)	色	オレンジ色	推定顔料名	丹か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼でオレンジ色、100倍顕微鏡の観察でオレンジ色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にPb元素が検出されたことから、丹と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Pb
		2007/01/17撮影			2008/01/17測定	2008/01/17測定	

絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	29	モチーフ	道(児嶋郡)	色	赤茶色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤茶色を確認。蛍光X線分析は、主にHg元素が検出されたことから、朱と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分:Hg P b は、下地の反応か
				黒く反応	2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	30	モチーフ	海の部分の内側の海	色	青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/16	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分:Ca 下方の波の表現は、他と同様に見える
					2008/01/16測定	2008/01/16測定	



絵図名	T1-5	備前国絵図 慶長年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	------	------------	------	-----------


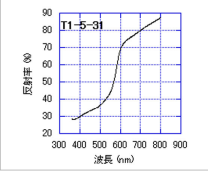
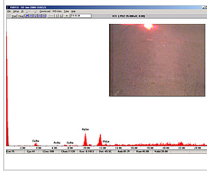
ポイントNo. **31**      モチーフ **地(上東郡の加筆)**

絵図調査日   2007/01/17   2007/06/06   2008/01/16   2008/01/17

色 **茶色**      推定顔料名 **朱+丹+胡粉+墨か**

DICNo.

肉眼で茶色を確認。蛍光X線分析は、主にPbとHgとCa元素が検出されたこと。朱と丹と胡粉の混色では薄オレンジ色となるため、墨の使用もあると推定した。


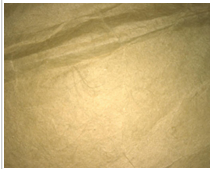
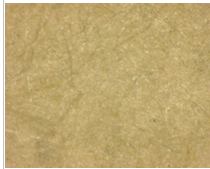
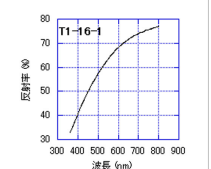
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分: Hg 少量成分: Ca 少量成分: Pb
					2008/01/17測定	2008/01/17測定	

## 備前国九郡絵図(資料番号 T1-16)の測定ポイント



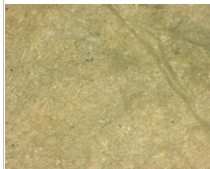
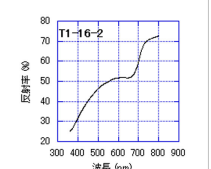


No	部位	色	No	部位	色
1	地色	-	6	郡境	黄
2	海	薄青	7	山	薄緑
3	川	青	8	古城	黄
4	道	赤	9	岡山城	桃
5	一里塚	黒			

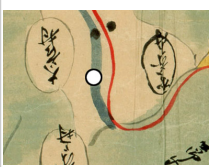


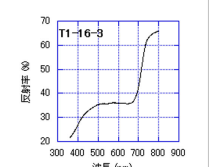
絵図名	T1-16 備前国九郡絵図 寛永年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	1	モチーフ	地色	色	紙地	推定顔料名	色なし
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.	肉眼で無色、175倍顕微鏡写真の観察で紙地を確認したことから、色なしと推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

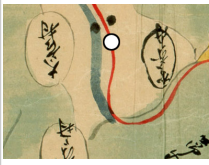

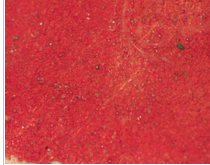
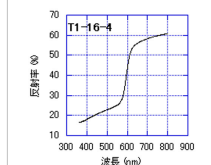
絵図名	T1-16 備前国九郡絵図 寛永年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	2	モチーフ	海	色	薄青色	推定顔料名	藍か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.	肉眼で薄青色、175倍顕微鏡写真の観察青色を確認したことから藍と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		



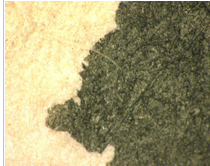
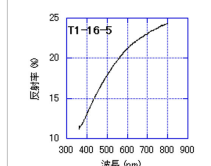
絵図名	T1-16 備前国九郡絵図 寛永年間			所蔵期間	岡山大学附属図書館		
ポイントNo.	3	モチーフ	川	色	青色	推定顔料名	藍か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.	肉眼で青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認したことから、藍と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		



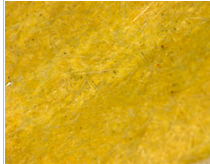
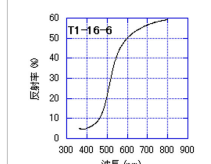
絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	4	モチーフ	道	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	5	モチーフ	一里塚	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察黒色を確認したことから、墨と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	6	モチーフ	郡境	色	黄色	推定顔料名	藤黄か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、175倍顕微鏡写真の観察で黄色を確認、可視反射分光スペクトルは、ガンボージ又は鬱金を主成分とするの染料の特徴を示していることから、藤黄と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	-------	--------------	------	-----------



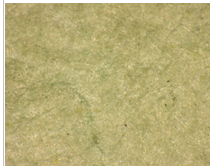
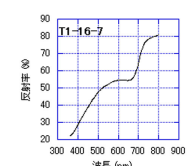
ポイントNo.  モチーフ

絵図調査日

色  推定顔料名

DICNo.

肉眼で薄緑色、175倍顕微鏡写真の観察で黄色と緑色を確認、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料とガンボージ又は鬱金を主成分とするの染料混色の特徴を示していることから、草の汁（藍と藤黄の混色）と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	-------	--------------	------	-----------




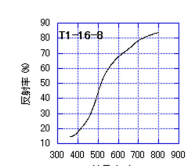
ポイントNo.  モチーフ

絵図調査日

色  推定顔料名

DICNo.

肉眼で黄色、175倍顕微鏡写真の観察で黄色を確認、可視反射分光スペクトルは、ガンボージ又は鬱金を主成分とするの染料の特徴を示していることから、藤黄と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		


絵図名	T1-16	備前国九郡絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	-------	--------------	------	-----------

ポイントNo.  モチーフ

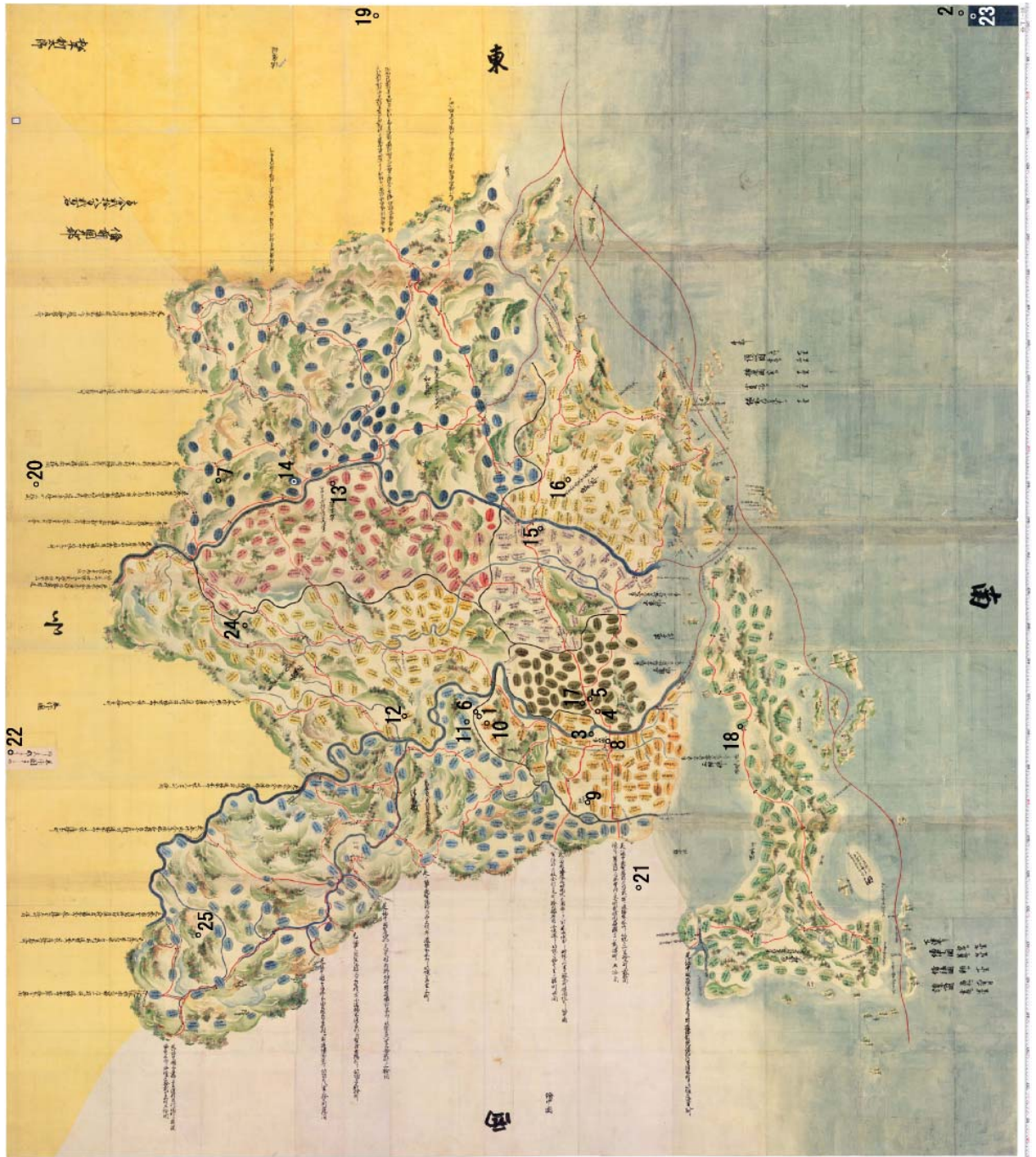
絵図調査日

色  推定顔料名

DICNo.



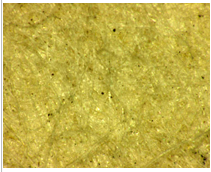
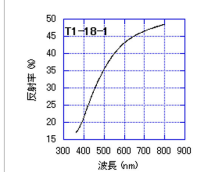
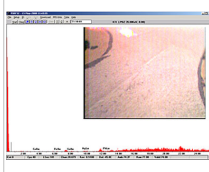
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	岡山城
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

## 備前国絵図（資料番号 T1-18）の測定ポイント

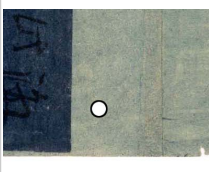
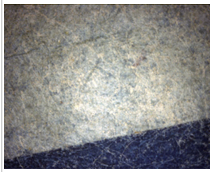
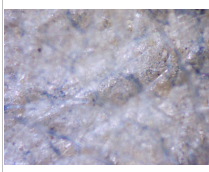
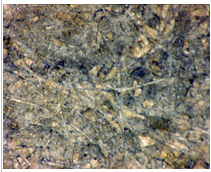
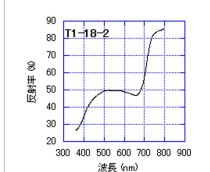
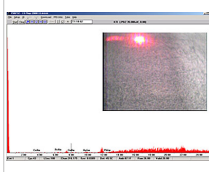


No	部位	色	No	部位	色
1	地色	—	13	村形(岩生)	桃
2	海	青	14	村形(和気)	水
3	川	青	15	村形(上東)	桃
4	道	赤	16	村形(邑久)	黄
5	一里塚	黒	17	村形(上道)	灰緑
6	郡境	黒	18	村形(児島)	薄緑
7	山	薄緑	19	播磨	黄
8	道	赤	20	美作	黄
9	古城	—	21	備中	薄白
10	村形(三野)	黄土	22	美作(付箋)	桃
11	村形(津高)	水	23	海(付箋)	濃青
12	村形(赤坂)	黄	24	樹木	青
			25	樹木(幹)	茶


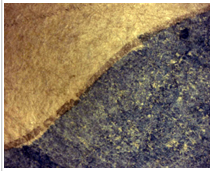
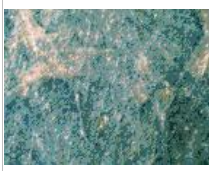
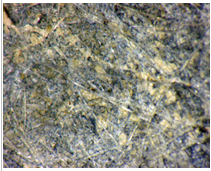
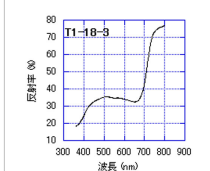
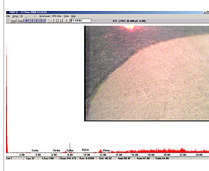
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	1	モチーフ	地色	色 紙地 推定顔料名 色なし
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo. <input type="text"/>
肉眼・175倍顕微鏡の観察で紙色を確認。蛍光X線分析は、主成分が検出されなかったことから、色なしと推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/1/15撮影		2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

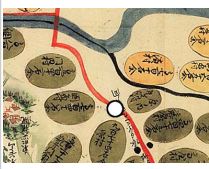

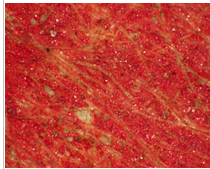
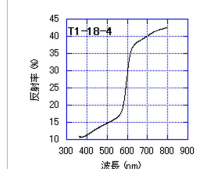
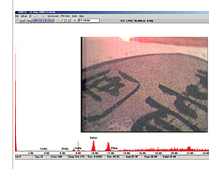
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	2	モチーフ	海	色 青色 推定顔料名 藍か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo. <input type="text"/>
肉眼で青色、100倍顕微鏡の観察と175倍顕微鏡写真で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	



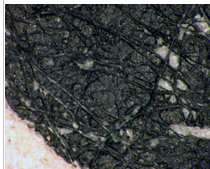
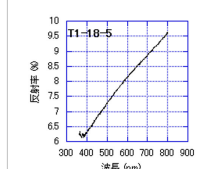
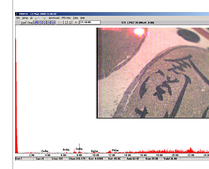
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	3	モチーフ	川	色 青色 推定顔料名 藍か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo. <input type="text"/>
肉眼で青色、100倍顕微鏡の観察と175倍顕微鏡写真で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

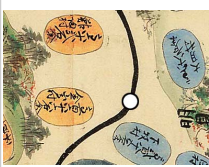

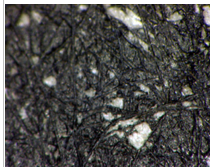
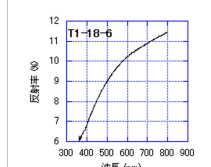
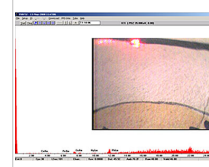
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	4	モチーフ	道	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で赤色、175倍の顕微鏡写真で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: Hg
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	5	モチーフ	一里塚	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で黒色、175倍の顕微鏡写真で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	



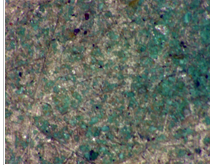
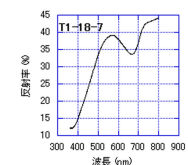
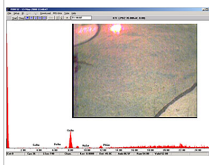
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	6	モチーフ	郡境	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で黒色、175倍の顕微鏡写真で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	



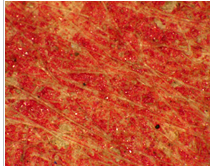
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	



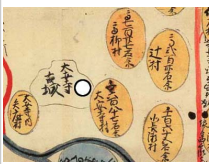


絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館						
ポイントNo.	7	モチーフ	山	色	未測定	推定顔料名	藍+藤黄か	緑青か		
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15		DICNo.		肉眼で薄緑色、175倍の顕微鏡写真で緑色の粒子、黄色と青色を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出されたことから、藍+藤黄地に緑青と推定した。			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Cu
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館						
ポイントNo.	8	モチーフ	道	色	赤色	推定顔料名	朱か			
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15		DICNo.		肉眼で赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認していることから、朱と推定した。			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし	画像なし	画像なし	
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影				

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館						
ポイントNo.	9	モチーフ	古城	色	紙地	推定顔料名	色なし			
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15		DICNo.		肉眼・175倍顕微鏡写真で紙色を確認したことから、色なしと推定した。			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし	画像なし	画像なし	
	2008/01/15撮影		2008/01/15撮影				

絵図名

T1-18

備前国絵図 正保2年

所蔵期間

岡山大学附属図書館

ポイントNo.

10

モチーフ

村形(三野郡)

絵図調査日

2007/01/17

2007/06/06

2008/01/15

色 黄土色

推定顔料名

丹+朱+藤黄+胡粉

DICNo.

肉眼で黄土色を確認、100倍の顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で赤色の粒子、黄色と白色を確認。蛍光X線分析は、主にPb、Hg、Ca元素が検出されたことから、丹と朱と藤黄と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)



×25(キーエンス)



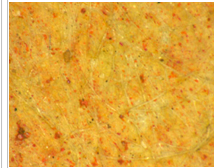
2008/01/15撮影

×100(ピーク)



2007/01/17撮影

×175(キーエンス)

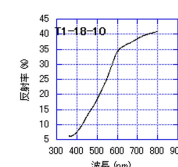


2008/01/15撮影

赤外線写真(部分)

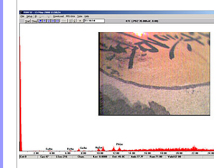
画像なし

可視反射スペクトル



2008/01/15測定

蛍光X線スペクトル



2008/01/15測定

主成分:Pb

少量成分:Hg

少量成分:Ca

メモ

赤い色の粒  
オレンジ色の粒  
透明な質感の黄色

絵図名

T1-18

備前国絵図 正保2年

所蔵期間

岡山大学附属図書館

ポイントNo.

11

モチーフ

村形(津高郡)

絵図調査日

2007/01/17

2007/06/06

2008/01/15

色 水色

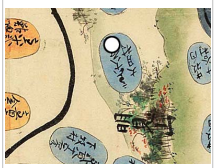
推定顔料名

藍+胡粉か

DICNo.

肉眼で水色、100倍顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で白色と青色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、藍と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)



×25(キーエンス)



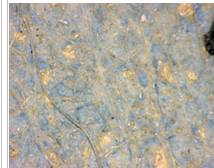
2008/01/15撮影

×100(ピーク)



2007/01/17撮影

×175(キーエンス)

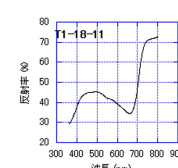


2008/01/15撮影

赤外線写真(部分)

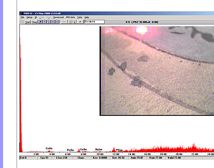
画像なし

可視反射スペクトル



2008/01/15測定

蛍光X線スペクトル



2008/01/15測定

主成分:Ca

メモ

絵図名

T1-18

備前国絵図 正保2年

所蔵期間

岡山大学附属図書館

ポイントNo.

12

モチーフ

村形(赤坂郡)

絵図調査日

2007/01/17

2007/06/06

2008/01/15

色 黄色

推定顔料名

藤黄か

DICNo.

肉眼で黄色、100倍顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で黄色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、ガンボージ又は鬱金を主成分とするの染料の特徴を示していることから、藤黄と推定した。

絵図(部分)

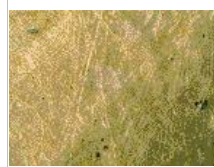


×25(キーエンス)



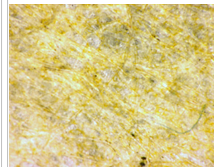
2008/01/15撮影

×100(ピーク)



2007/01/17撮影

×175(キーエンス)

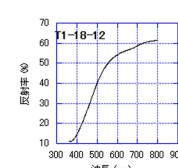


2008/01/15撮影

赤外線写真(部分)

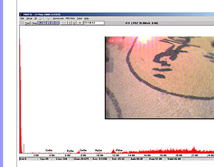
画像なし

可視反射スペクトル



2008/01/15測定

蛍光X線スペクトル



2008/01/15測定

主成分:検出せず

メモ

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館				
ポイントNo.	13	モチーフ	村形(岩生郡)	色	桃色	推定顔料名	脂肪酸+朱+丹+胡粉	朱+丹+胡粉か?
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真でオレンジ色の粒子と赤色と白色を確認。蛍光X線分析は主にPbとHgとCa元素が検出したことから、脂肪酸と朱と丹と胡粉の混色か朱と丹と語風の混色と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Pb 少量成分:Ca 少量成分:Hg
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/16測定	2008/01/15測定	

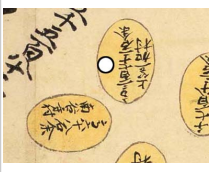
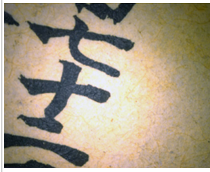

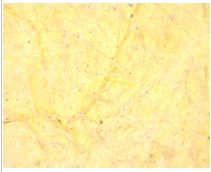
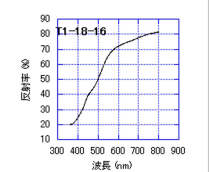
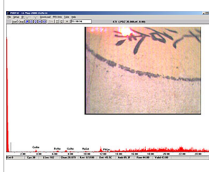
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	14	モチーフ	村形(和気郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で水色、100倍の顕微鏡の観察と175倍顕微鏡写真で青色と白色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	




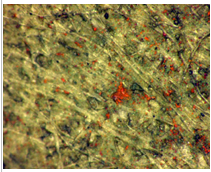
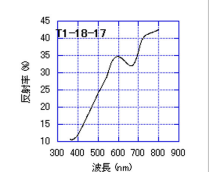

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	15	モチーフ	村形(上東郡)	色	桃色	推定顔料名	脂肪酸+胡粉か?
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で白色と赤色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、脂肪酸と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影	未調査	2008/01/15測定	2008/01/15測定	


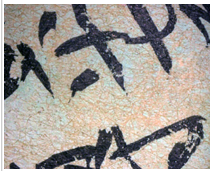

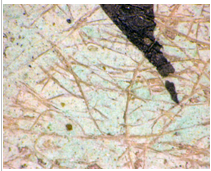
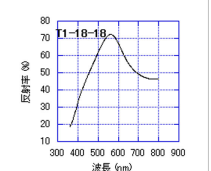
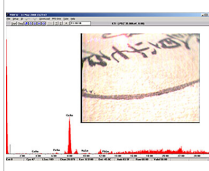
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	16	モチーフ	村形(邑久郡)	色	黄色	推定顔料名	丹+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジの粒子、黄色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa・Pb元素が検出したことから、丹と藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca 少量成分:Pb
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

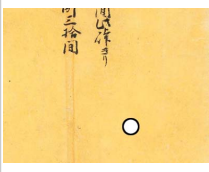


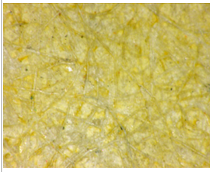
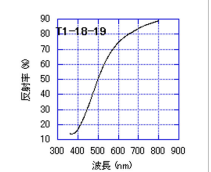
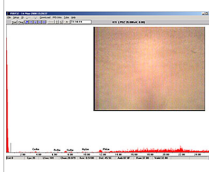
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	17	モチーフ	村形(上道郡)	色	灰緑色	推定顔料名	朱+緑青+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で灰緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色と緑色の粒子、黒色を確認。蛍光X線分析は主にHg・Cu元素が検出したことから、朱と緑青と墨の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Cu 少量成分:Hg
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

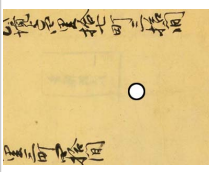


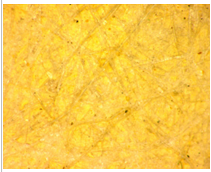
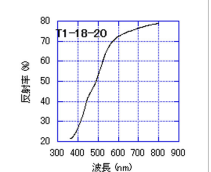
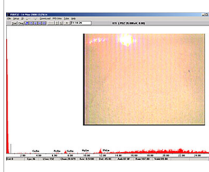
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	18	モチーフ	村形(児島郡)	色	薄緑色	推定顔料名	白緑か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で薄緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で小さな緑色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出したことから、白緑と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Cu
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

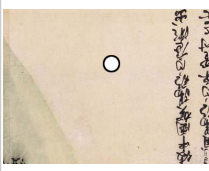


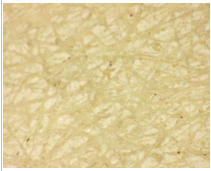
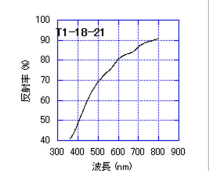
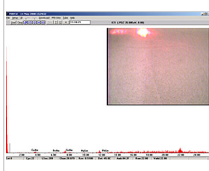
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	19	モチーフ	国(播磨国)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

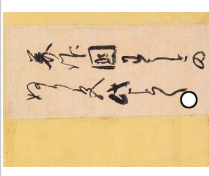
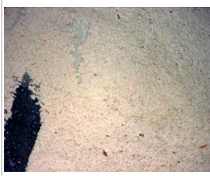

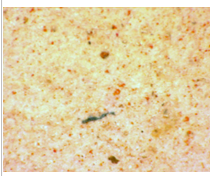

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	20	モチーフ	国(美作国)	色	黄色	推定顔料名	藤黄か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で灰緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、ガンボージ又は鬱金を主成分とするの染料の特徴を示していることから、藤黄と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

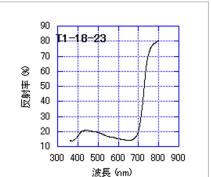
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	21	モチーフ	国(備中)	色	薄白色	推定顔料名	臘脂+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で薄白色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、臘脂と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影	2008/01/15撮影		2008/01/15測定	2008/01/15測定	

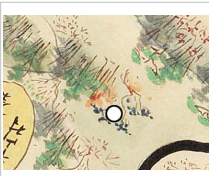
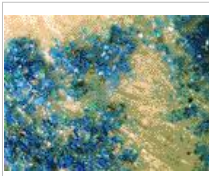
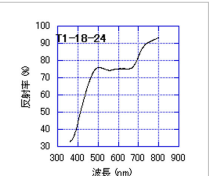
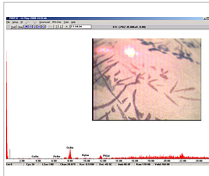
絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館				
ポイントNo.	22	モチーフ	付箋(美作)	色	桃色	推定顔料名	丹+胡粉か	
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Ca元素が検出したことから、丹と胡粉の混色と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし	画像なし		主成分:Pb 主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影			2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館				
ポイントNo.	23	モチーフ	付箋	色	濃青色	推定顔料名	藍か	
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で濃青色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/15撮影	2007/01/17撮影	2008/01/15撮影		2008/01/14測定	2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館				
ポイントNo.	24	モチーフ	葉	色	青色	推定顔料名	群青か	
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/15	DICNo.		肉眼で青色、100倍顕微鏡で青色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にCu元素を検出したことから、群青と推定した。		

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし		画像なし	画像なし			主成分:Cu
		2007/01/17撮影			2008/01/15測定	2008/01/15測定	

絵図名	T1-18	備前国絵図 正保2年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	-------	------------	------	-----------




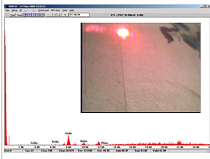
ポイントNo. **25**      モチーフ **幹**

色 **茶色**      推定顔料名 **朱+墨か**

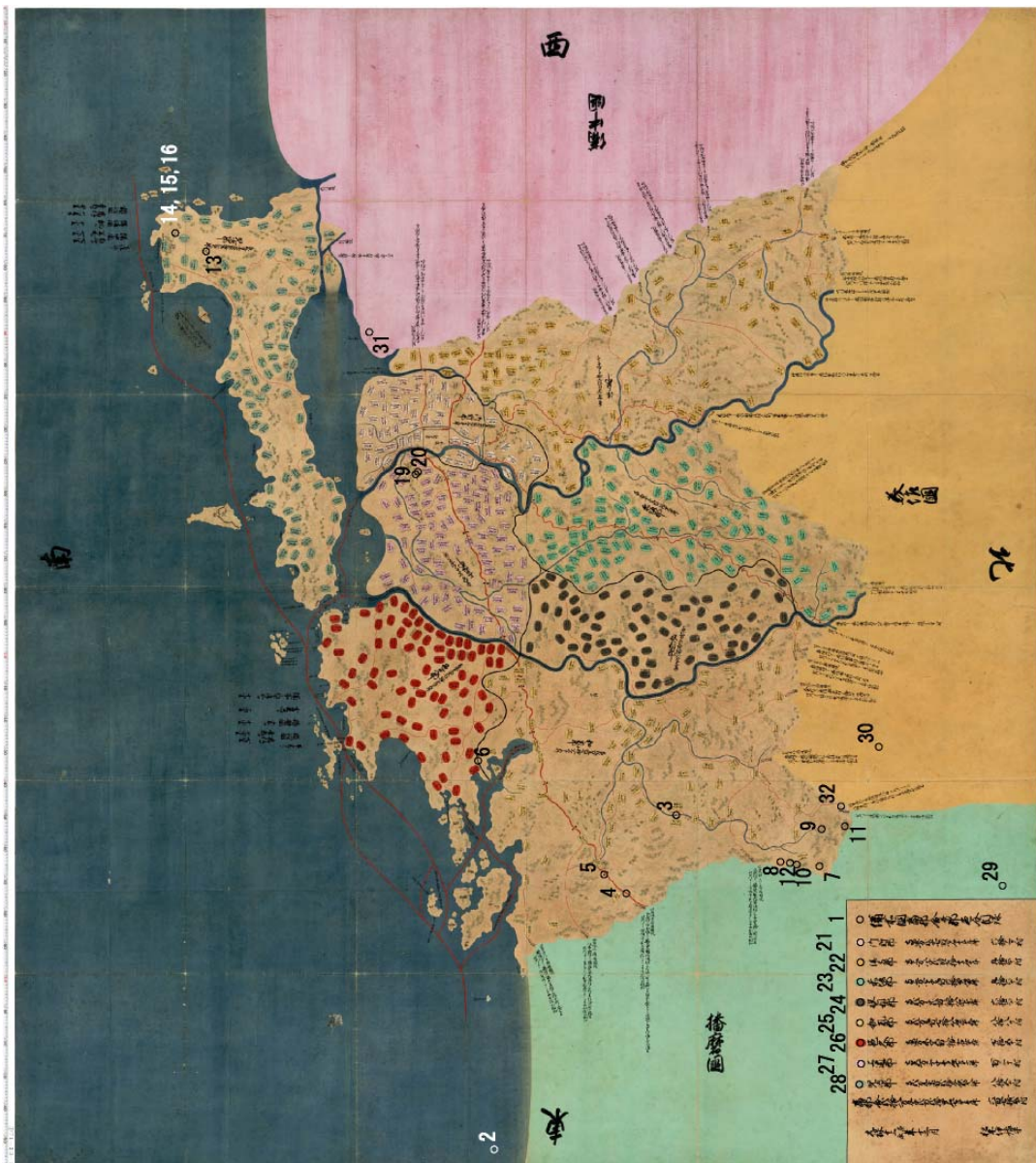
絵図調査日 **2007/01/17**    **2007/06/06**    **2008/01/15**

DICNo.

肉眼で茶色、175倍顕微鏡写真の赤色と黒色を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と墨の混色と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	主成分: Hg	メモ
 <p>キーエンス(×175)</p>	 <p>2008/01/15撮影</p>	<p>画像なし</p>	 <p>2008/01/15撮影</p>	<p>画像なし</p>	<p>画像なし</p>	 <p>2008/01/15測定</p>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

## 備前国絵図（資料番号 T1-20-1）の測定ポイント

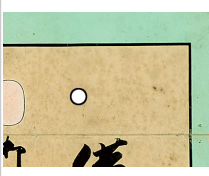



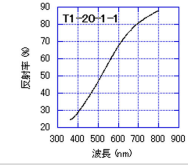
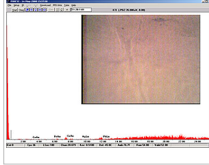


No	部位	色	No	部位	色
1	地色	—			
2	海	青			
3	川	青	19	建造物(屋根)	薄茶
4	道	赤	20	建造物(柱)	茶
5	一里塚	黒	21	村形(三野)	桃
6	郡境	黒	22	村形(津高)	黄土
7	山	薄緑	23	村形(赤坂)	薄緑
8	山	橙	24	村形(岩生)	灰茶
9	山	黒	25	村形(和気)	肌
10	樹木(葉)	緑	26	村形(邑久)	赤
11	樹木(葉)	橙	27	村形(上道)	桃
12	樹木(葉)	青	28	村形(児島)	薄緑
13	樹木(葉)	緑	29	国(播磨)	薄緑
14	樹木(葉)	薄黒	30	国(美作)	黄
15	樹木(幹)	茶	31	国(備中)	桃
16	樹木(幹)	黒	32	山	青

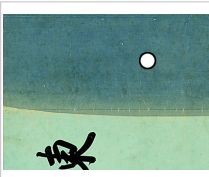
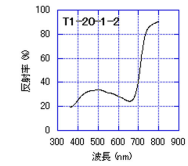
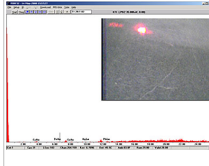
\* No.17および18は測定ポイント変更のため欠番



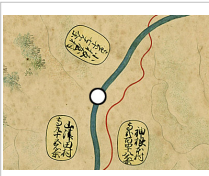
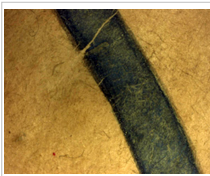
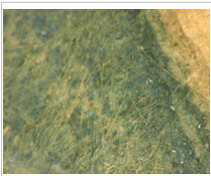
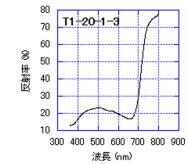
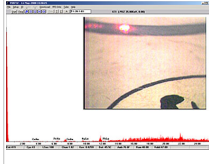
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	1	モチーフ	凡例:地色	色	紙地	推定顔料名	色なし
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で紙色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で紙色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、色なしと推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	




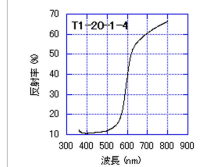
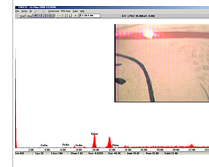
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	2	モチーフ	海	色	青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で青色、蛍光X線分析は主にCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			主成分:Ca
					2008/01/16測定	2008/01/16測定	

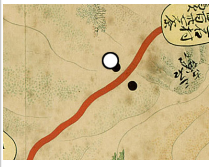
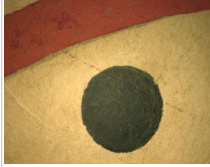
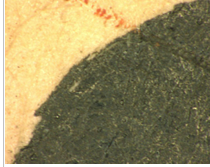
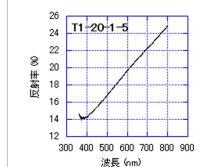
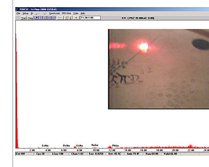
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	3	モチーフ	川	色	青色	推定顔料名	藍か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

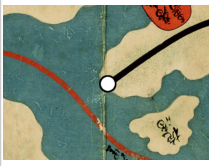

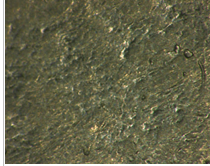
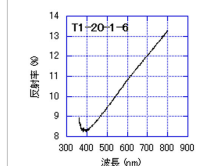
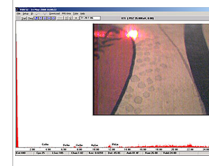
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	4	モチーフ	道	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: Hg
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	5	モチーフ	一里塚	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	6	モチーフ	郡境	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	

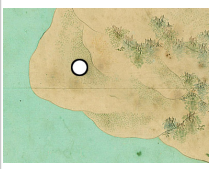
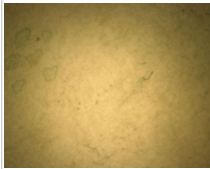
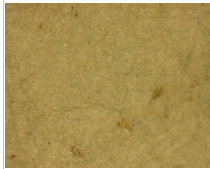
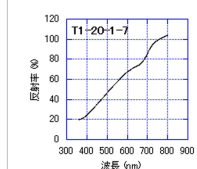
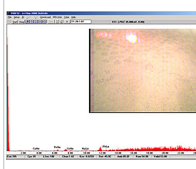
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	---------	-------------	------	-----------

ポイントNo.  モチーフ

絵図調査日

色	薄緑色	推定顔料名	草の汁か
DICNo.	<input type="text"/>	肉眼で薄緑色、175倍顕微鏡写真の観察で青色と黄色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料とガンボージ又は鬱金を主成分とする染料混色の特徴を示していることから、藍と藤黄の混色（草の汁）と推定した。	

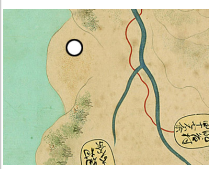
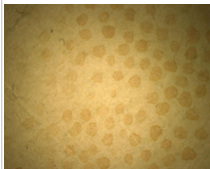
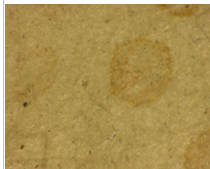
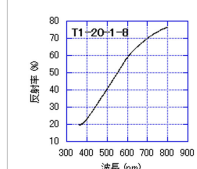
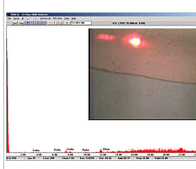
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	---------	-------------	------	-----------

ポイントNo.  モチーフ

絵図調査日

色	オレンジ色	推定顔料名	不明
DICNo.	<input type="text"/>	肉眼でオレンジ色、175倍顕微鏡写真のオレンジ色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、オレンジ色の色料を推定することができなかった。	



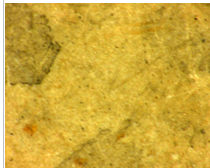
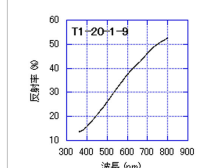
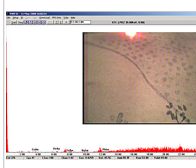
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	---------	-------------	------	-----------

ポイントNo.  モチーフ

絵図調査日

色	黒色	推定顔料名	墨か
DICNo.	<input type="text"/>	肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	



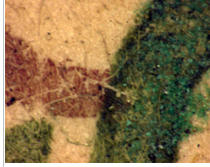
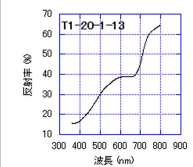
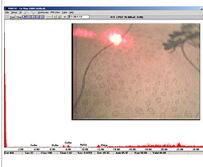
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	10	モチーフ	葉	色	緑色	推定顔料名	草の汁か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で薄緑色、175倍顕微鏡写真の観察で青色と黄色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料とガンボージ又は鬱金を主成分とする染料混色の特徴を示していることから、藍と藤黄の混色（草の汁）と推定した。	
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

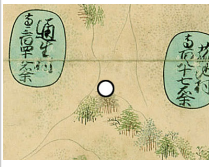
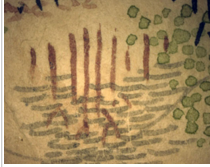
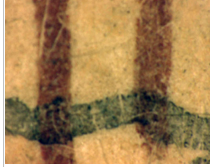
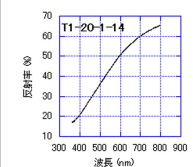
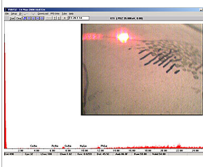
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	11	モチーフ	葉	色	オレンジ色	推定顔料名	不明
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼でオレンジ色、175倍顕微鏡写真のオレンジ色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、オレンジ色の色料を推定することができなかった。	
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	12	モチーフ	葉	色	青色	推定顔料名	藍か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。	
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

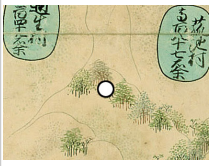
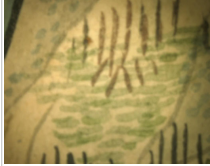

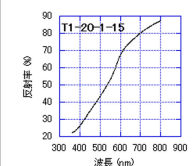
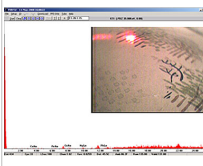
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館					
ポイントNo.	13	モチーフ	葉	色	緑色	推定顔料名	緑青か	草の汁か	
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で緑色、175倍顕微鏡写真の観察で緑色の粒子、青色と黄色を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出したことから、草の汁の下地に緑青と推定した。			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Cu
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	


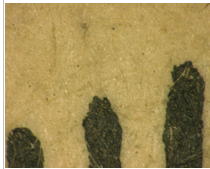
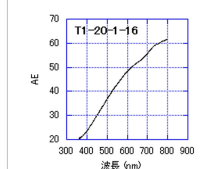
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館					
ポイントNo.	14	モチーフ	葉	色	薄黒色	推定顔料名	墨か		
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	


絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館					
ポイントNo.	15	モチーフ	幹	色	茶色	推定顔料名	朱+墨か		
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で茶色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、黒色を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と墨の混色と推定した			

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Hg
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	



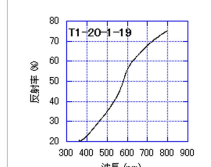
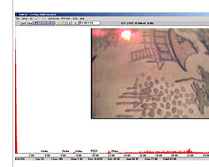
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	16	モチーフ	幹	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認、蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

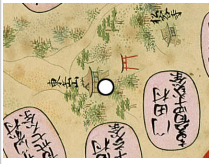
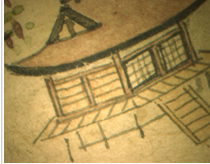

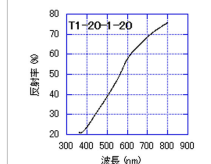
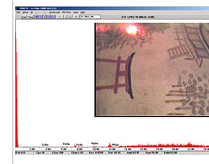
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	18	モチーフ	古城	色	オレンジ色・青色・緑色・薄墨色	推定顔料名	藍か 草の汁か 薄墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼の観察で、青色と緑色と薄黒色を確認したことから、藍色と草の汁（藍と藤黄の混色）と薄墨で描かれたと推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	

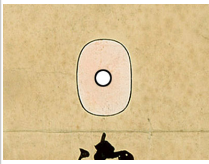
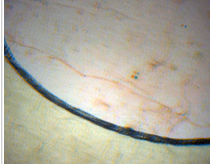


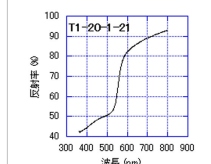
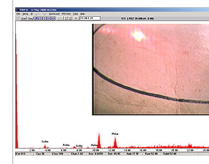
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	19	モチーフ	屋根(神社)	色	薄茶色	推定顔料名	不明
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で薄茶色、175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色と赤色と黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、不明のオレンジ色と赤色と墨の混色と推定した。	

絵図(部分)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし	画像なし			主成分: 検出せず
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影	2008/01/16測定	2008/01/16測定	

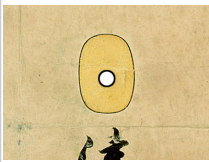



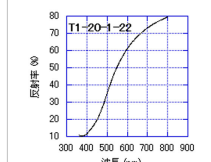
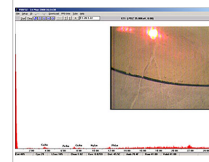
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	20	モチーフ	柱(神社)	色	茶色	推定顔料名	朱+墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で茶色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、黒色を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と墨の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分: Hg
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

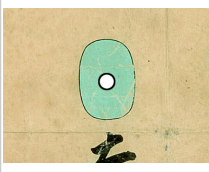
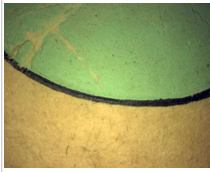
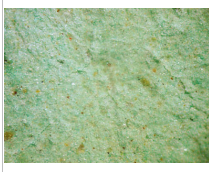
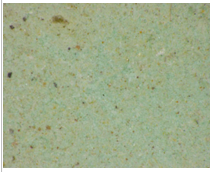
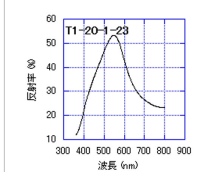
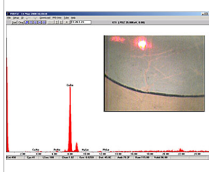
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	21	モチーフ	村形(三野郡)	色	桃色	推定顔料名	丹+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色との粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Ca元素が検出したことから、丹と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Pb 主成分: Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

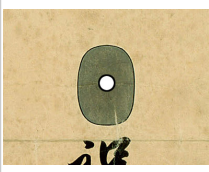


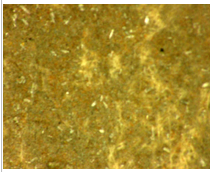
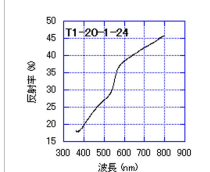
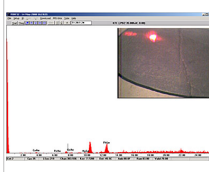
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	22	モチーフ	村形(津高郡)	色	黄土色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黄土色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

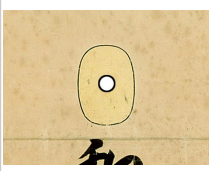
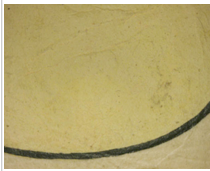

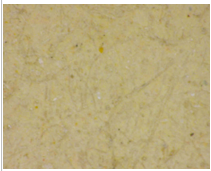
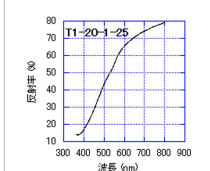
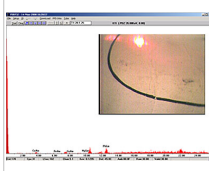
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	23	モチーフ	村形(赤坂郡)	色	薄緑色	推定顔料名	白緑か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で薄緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で細かい緑色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出したことから、白緑と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Cu
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	24	モチーフ	村形(岩生郡)	色	灰茶色	推定顔料名	丹+胡粉+墨か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で灰茶色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、白色と黒色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Ca元素が検出したことから、丹と胡粉と墨の混色と推定した。	

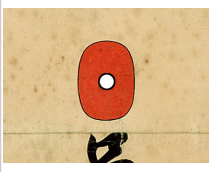



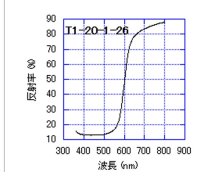
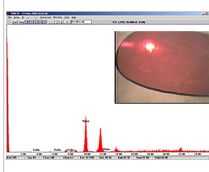
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Pb 主成分:Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	25	モチーフ	村形(和気郡)	色	ペール色	推定顔料名	丹+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼でペール色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Ca元素が検出したことから、丹と胡粉の混色と推定した。	

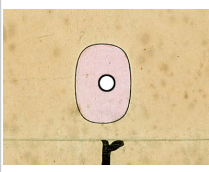


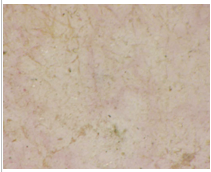
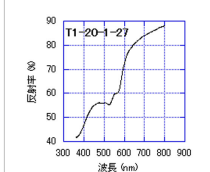
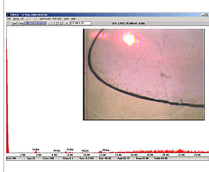
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Pb 主成分:Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	



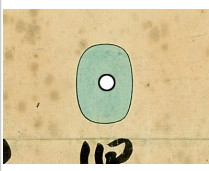


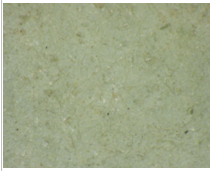
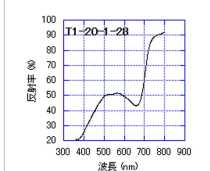
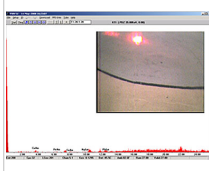
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	26	モチーフ	村形(邑久郡)	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で赤色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Hg
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

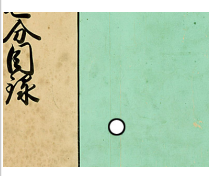

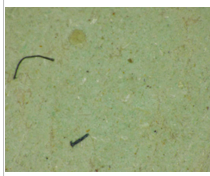
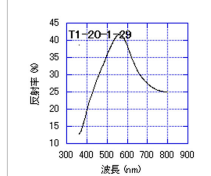
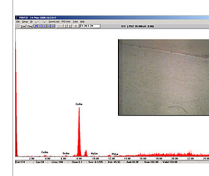
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	27	モチーフ	村形(上道郡)	色	桃色	推定顔料名	胭脂+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、胭脂と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

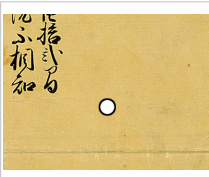



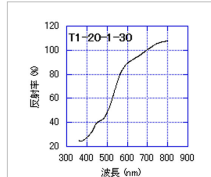
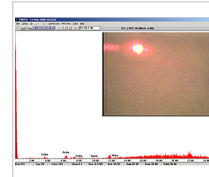
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	28	モチーフ	村形(児島郡)	色	薄緑色	推定顔料名	丹+藍+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で薄緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で白色と薄緑色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Ca元素が検出したことから、丹と胡粉の混色と粒子のない緑色に見え、尚且つ蛍光X線分析に無反応である緑色が藍+藤黄と推定し、丹と藍と藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Pb 少量成分: Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

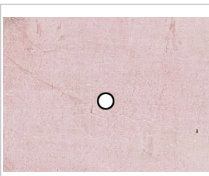



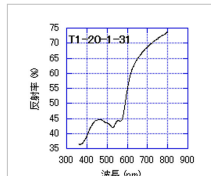
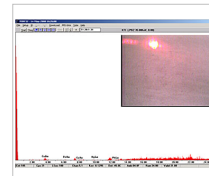
絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	29	モチーフ	国(播磨)	色	薄緑色	推定顔料名	白緑+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で灰緑色、175倍顕微鏡写真の観察で細かい緑色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にCa・Cu元素が検出したことから、白緑と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Cu 少量成分:Ca
	2008/01/16撮影		2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	30	モチーフ	国(美作)	色	黄色	推定顔料名	黄土+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色の粒子と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa・Fe元素が検出したことから、黄土と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Fe 少量成分:Ca
	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	31	モチーフ	国(備中)	色	桃色	推定顔料名	臘脂+胡粉か
絵図調査日	2008/01/16			DICNo.		肉眼で灰緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、臘脂と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/15撮影	2008/01/16撮影	2008/01/16撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定	

絵図名	T1-20-1	備前国絵図 元禄13年	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	---------	-------------	------	-----------


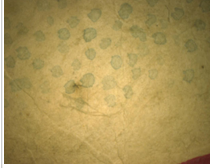
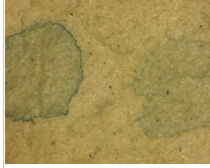
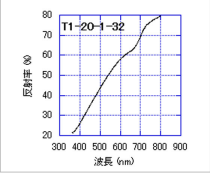
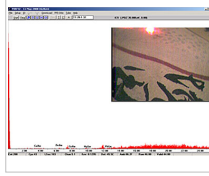
ポイントNo. **32**      モチーフ **山**

絵図調査日 2008/01/16

色 **青色**      推定顔料名 **藍か**

DICNo.

肉眼で青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかった。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。

<b>絵図(部分)</b> 	<b>×25(キーエンス)</b> 	<b>×100(ピーク)</b> 画像なし	<b>×175(キーエンス)</b> 	<b>赤外線写真(部分)</b> 画像なし	<b>可視反射スペクトル</b> 	<b>蛍光X線スペクトル</b> 	主成分: 検出せず <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<b>メモ</b> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
	2008/01/16撮影		2007/06/06撮影		2008/01/16測定	2008/01/16測定		

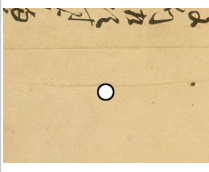
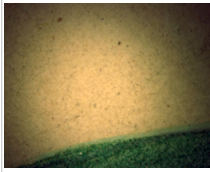


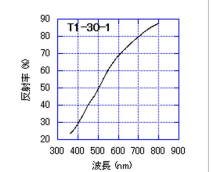
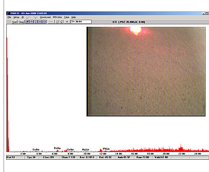
## 備中国絵図（資料番号 T1-30）の測定ポイント




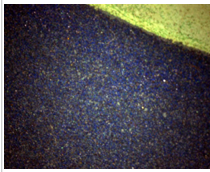
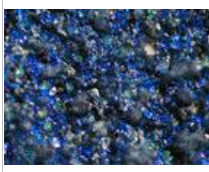
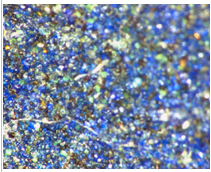
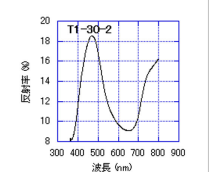
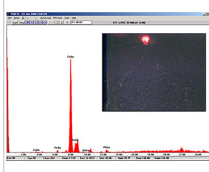
※T1-30

No	部位	色	No	部位	色
1	海	—	16	村形(小田)	白
2	川	濃青	17	村形(浅口)	桃
3	道	濃青	18	村形(下道)	茶橙
4	道	赤	19	村形(窪屋)	白
5	一里塚	黒	20	村形(都宇)	赤
6	郡境	金	21	地(哲多)	橙
7	山	緑	22	地色(阿賀)	水色
8	古城	金	23	地色(上房)	白
9	城の屋根	薄青	24	地色(川上)	薄桃
10	村形(哲多)	白	25	地色(加陽)	黄土
11	村型(阿賀)	黄	26	地色(後月)	茶
12	村型(上房)	桃	27	地色(小田)	水色
13	村型(川上)	黄土	28	地色(浅口)	黄土
14	村形(岩生)	水	29	地色(下動)	黄色
15	村形(後月)	黄	30	地色(窪屋)	薄黄
			31	地色(郡宇)	桃


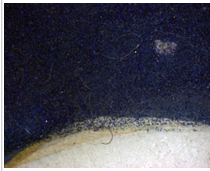
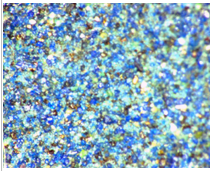
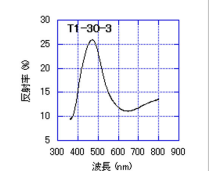
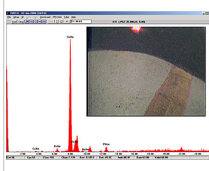
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	1	モチーフ	地色	色 紙地 推定顔料名 色なし
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo. <input type="text"/>
肉眼で紙色、175倍顕微鏡写真の観察で紙色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、色なしと推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:検出せず
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	2	モチーフ	海	色 濃青色 推定顔料名 群青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo. <input type="text"/>
肉眼で濃青色を確認、100倍の顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で青色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCu、Zn元素が検出されたことから、群青と推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Cu 少量成分:Zn
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	銅の中に亜鉛はあるが、群青の中に亜鉛が含まれるのはめずらしい。天然のものか鍋島の殿様が持っている絵具にも含まれているものはない。

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	3	モチーフ	川	色 濃青色 推定顔料名 群青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo. <input type="text"/>
肉眼で濃青色を確認、100倍の顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で青色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCu元素が検出されたことから、群青と推定した。				

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Cu 少量成分:Zn Fe(少)
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	銅の中に亜鉛はあるが、群青の中に亜鉛が含まれるのはめずらしい。天然のものか鍋島の殿様が持っている絵具にも含まれているものはない。

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	4	モチーフ	道	色	オレンジ色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色を確認、100倍の顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で赤色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にHg元素が検出されたことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分: Hg Caは、地の部分の反応か
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



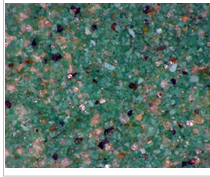
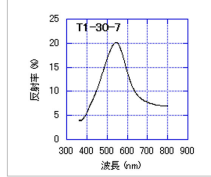
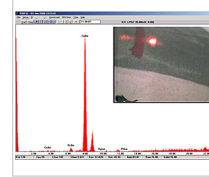
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	5	モチーフ	一里塚	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼・100倍顕微鏡観察・175倍の顕微鏡写真で黒色を確認。蛍光X線分析は主成分が検出されなかったことから、墨と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			道 of Hg、地のCaが反応か
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

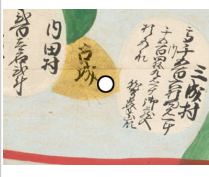

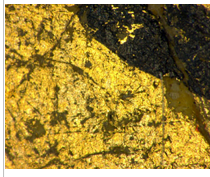
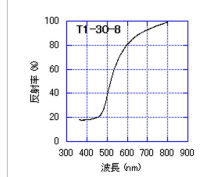
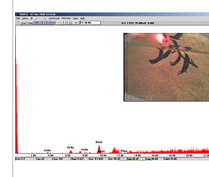
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	6	モチーフ	郡境	色	金色	推定顔料名	金泥か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼・175倍の顕微鏡写真で金色を確認。蛍光X線分析は、主にAu元素が検出されたことから、金泥と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			Cuは地の緑青の反応か Hgは金泥の下の朱の反応か
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



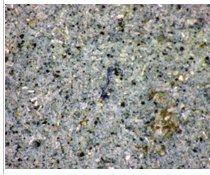
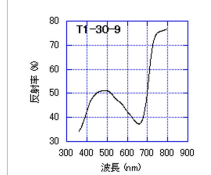
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	7	モチーフ	山	色	緑色	推定顔料名	緑青か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で緑色を確認、175倍の顕微鏡写真で緑色の粒子を確認。蛍光X線分析は、主にCu元素が検出されたことから、緑青と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Cu
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

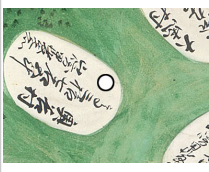


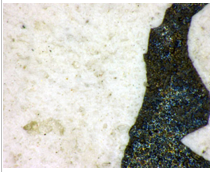
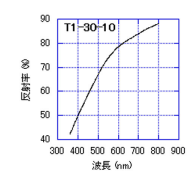
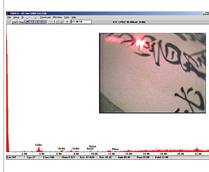
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	8	モチーフ	古城	色	金色	推定顔料名	金箔か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼・175倍の顕微鏡写真で密度のある金色を確認。蛍光X線分析は、主にAu元素が検出されたことから、金箔と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし			主成分:Au Hg は下地の反応か
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	


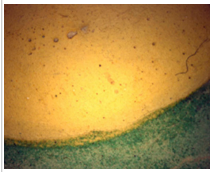

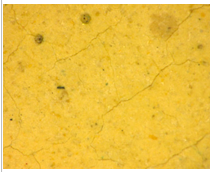
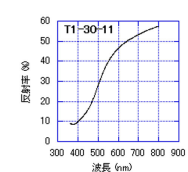
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	9	モチーフ	城の屋根	色	薄青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄青色を確認、175倍の顕微鏡写真で青色と白色を確認ことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影		2008/01/17撮影		2008/01/17測定		





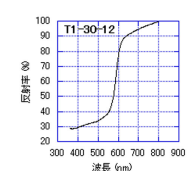
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	10	モチーフ	村形(哲多郡)	色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で白色を確認、100倍の顕微鏡観察と175倍の顕微鏡写真で白色を確認。蛍光X線分析は、主にCa元素が検出されたことから、胡粉と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	11	モチーフ	村形(阿賀郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡観察、175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

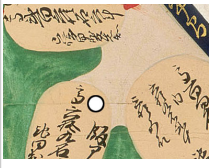



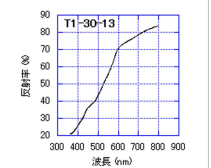
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	12	モチーフ	村形(上房郡)	色	桃色	推定顔料名	丹+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で桃色、100倍の顕微鏡観察、175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、白色を確認したことから、丹と胡粉の混色と推定した。	




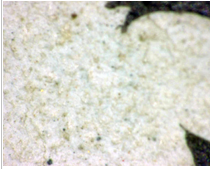
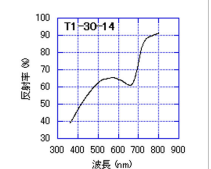
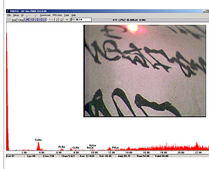
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		






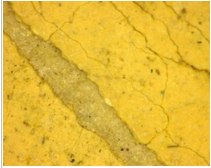
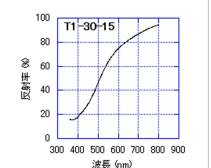
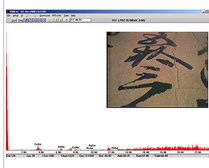
絵図名	T1-30	T1-30備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	13	モチーフ	村形(川上郡)	色	黄土色	推定顔料名	丹+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄土色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、黄色と白色を確認したことから、丹と藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

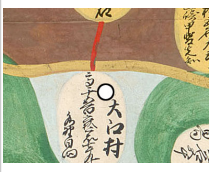


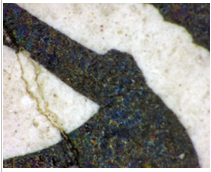
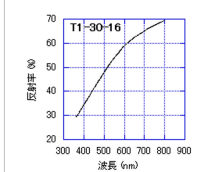
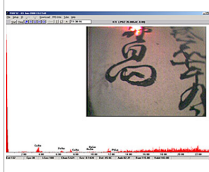
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	14	モチーフ	村形(加陽郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色、100倍顕微鏡観察と175倍顕微鏡写真の観察で青色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	


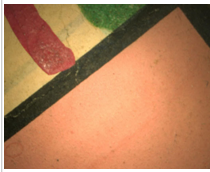

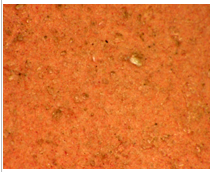
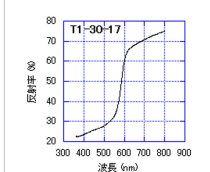
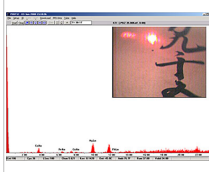
絵図名	T1-30	T1-30備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	15	モチーフ	村形(後月郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	




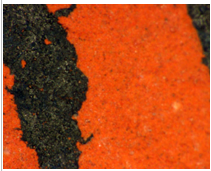
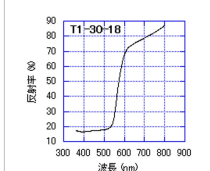
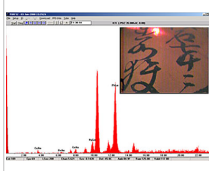
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	16	モチーフ	村形(小田郡)	色	白色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色に近い白色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察では色の確認ができなかった。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、胡粉と少量の藤黄の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	


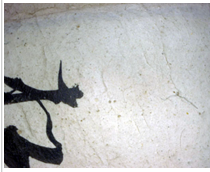

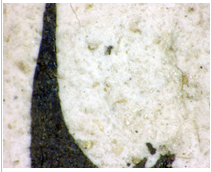
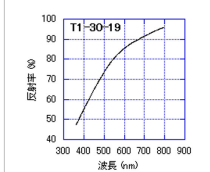
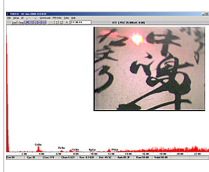
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	17	モチーフ	村形(浅口郡)	色	桃色	推定顔料名	朱+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にHg・Ca元素が検出したことから、朱と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Hg 主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	





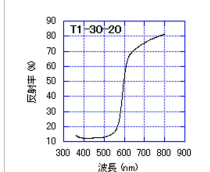
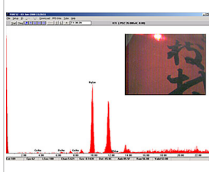
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	18	モチーフ	村形(下道郡)	色	赤茶色	推定顔料名	朱+丹+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤茶色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、白色を確認。蛍光X線分析は主にHg・Ca元素が検出したことから、朱と丹と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Pb 少量成分:Hg 少量成分:Ca Cu(少)
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	Cuは下地の反応か


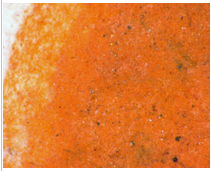
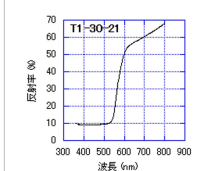
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	19	モチーフ	村形(窪屋郡)	色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で白色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で白色を確認。蛍光X線分析は主にCa元素が検出したことから、胡粉と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Ca
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	



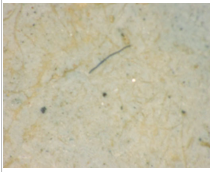
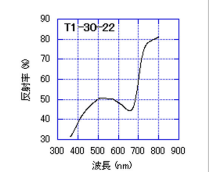
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	20	モチーフ	村形(都宇郡)	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で赤色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし			主成分:Hg
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定	2008/01/17測定	




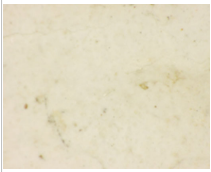
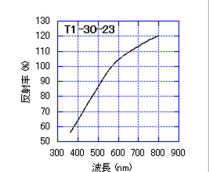
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	21	モチーフ	地(哲多郡)	色	オレンジ色	推定顔料名	朱+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で灰緑色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、黒色を確認したことから、朱と墨の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

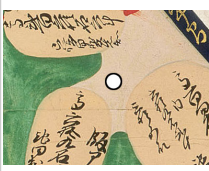
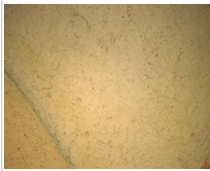

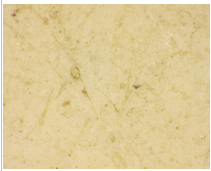
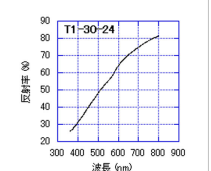
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	22	モチーフ	地(阿賀郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で水色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で青色と白色を確認したことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

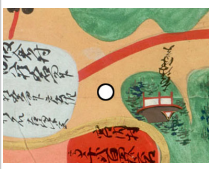
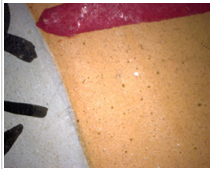

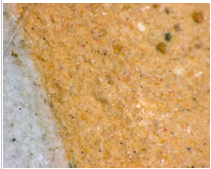
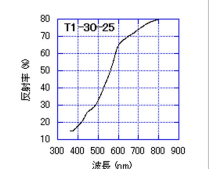
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	23	モチーフ	地(上房郡)	色	白色	推定顔料名	胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で白色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で白色を確認したことから、胡粉と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		


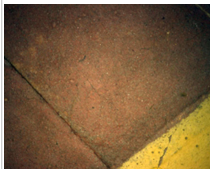


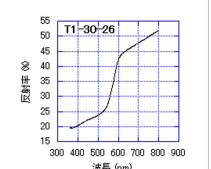
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	24	モチーフ	地(川上郡)	色	薄桃色	推定顔料名	胭脂+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色と白色を確認したことから、胭脂と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/16撮影		2008/01/17測定		





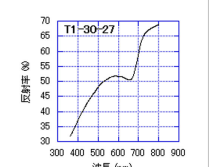
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	25	モチーフ	地(加陽郡)	色	黄土色	推定顔料名	丹+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄土色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、黄色と白色を確認したことから、丹と藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

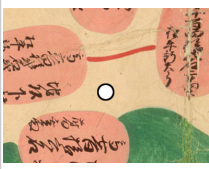



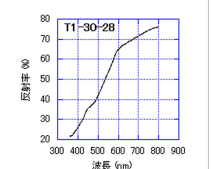
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	26	モチーフ	地(後月郡)	色	茶色	推定顔料名	丹+胡粉+墨か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で茶色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子、白色と黒色を確認したことから、朱と緑青と墨の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		



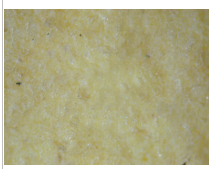

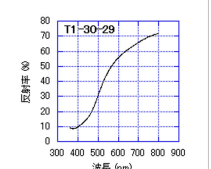
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	27	モチーフ	地(小田郡)	色	水色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.	未測定	肉眼で水色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で青色と白色を確認したことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

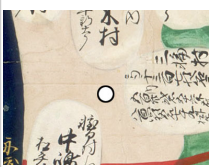
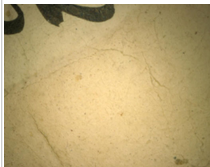
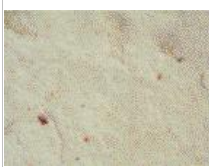
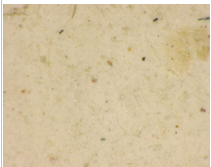
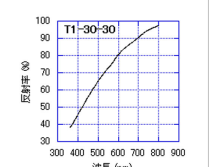
絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	28	モチーフ	地(浅口郡)	色	黄土色	推定顔料名	丹+藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄土色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色の粒子、黄色と白色を確認したことから、丹と藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	29	モチーフ	地(下道郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で黄色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2008/01/15撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

絵図名	T1-30	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	30	モチーフ	地(窪屋郡)	色	薄桃色	推定顔料名	胭脂+胡粉か
絵図調査日	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	DICNo.		肉眼で薄桃色、100倍顕微鏡の観察で赤色と白色を確認したことから、胭脂と胡粉の混色と推定した。	

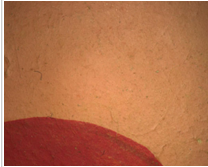
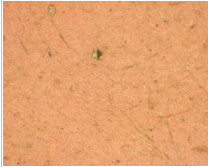
絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
				画像なし		画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

<b>絵図名</b>	T1-30	<b>備中国絵図 寛永年間</b>	<b>所蔵期間</b>	岡山大学附属図書館
------------	-------	-------------------	-------------	-----------

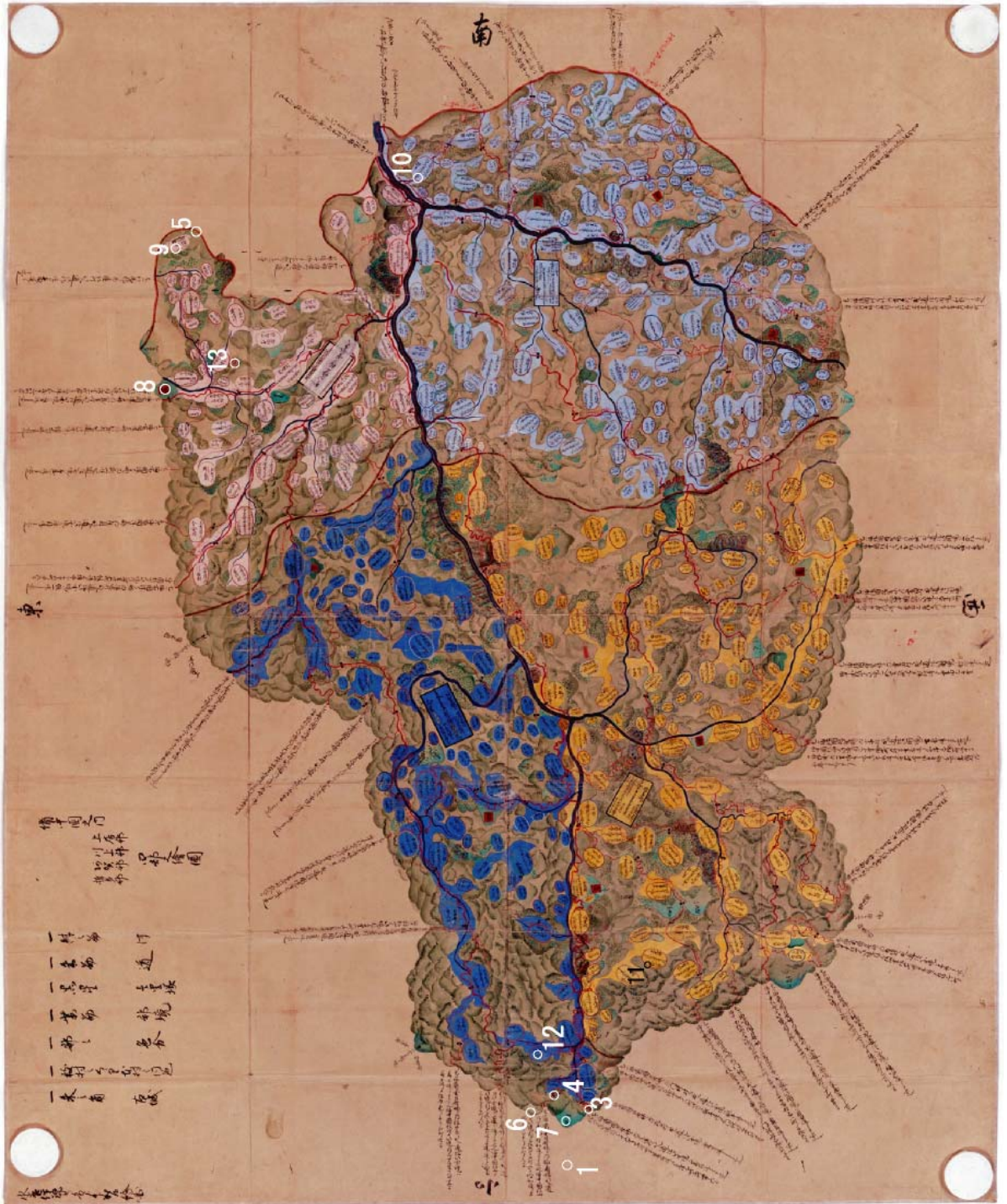
<b>ポイントNo.</b>	31	<b>モチーフ</b>	地(都宇郡)
----------------	----	-------------	--------

<b>絵図調査日</b>	2007/01/17	2007/06/06	2008/01/17	
--------------	------------	------------	------------	--

<b>色</b>	桃色	<b>推定顔料名</b>	丹+胡粉か
<b>DICNo.</b>		肉眼で桃色、100倍顕微鏡と175倍顕微鏡写真の観察でオレンジ色白色を確認したことから、丹と胡粉の混色と推定した。	

<b>絵図(部分)</b>	<b>×25(キーエンス)</b>	<b>×100(ピーク)</b>	<b>×175(キーエンス)</b>	<b>赤外線写真(部分)</b>	<b>可視反射スペクトル</b>	<b>蛍光X線スペクトル</b>	<b>メモ</b>
				画像なし	 <p style="font-size: small;">T1-30-31 反射率(%) 300 400 500 600 700 800 900 波長 (nm)</p>	画像なし	
	2008/01/17撮影	2007/01/17撮影	2008/01/17撮影		2008/01/17測定		

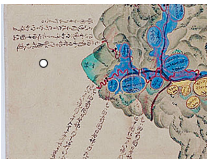
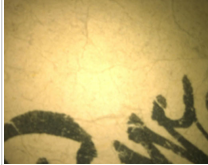
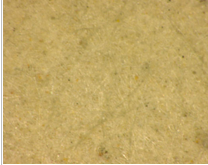
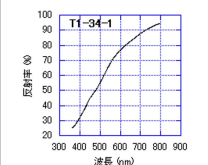
# 備中国之内上房郡川上郡阿賀郡哲多郡四郡之絵図 (資料番号 T1-34)の測定ポイント





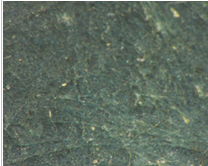
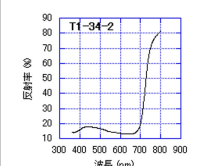
No	部位	色	No	部位	色
1	紙地	-	8	古城	赤
2	川	薄青	9	村型	薄桃
3	道	赤	10	村型	薄青
4	一里塚	黒	11	村型	黄
5	郡境	茶	12	村型	薄青
6	山	薄緑	13	村型	薄赤紫
7	山	緑			



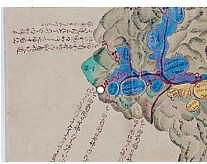
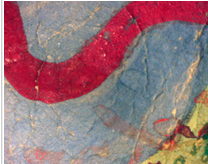

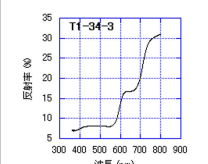
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	1	モチーフ	地色	色 紙地 推定顔料名 色なし
絵図調査日	2008/01/18			DICNo. <input type="text"/> 肉眼で紙色、175倍顕微鏡写真の観察で紙色を確認したことから、色なしと推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		


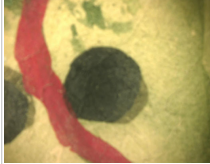
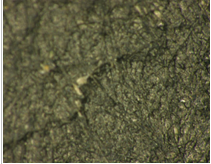
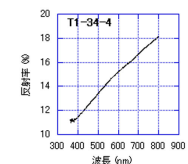
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	2	モチーフ	川	色 薄青色 推定顔料名 藍か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo. <input type="text"/> 肉眼で薄青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		



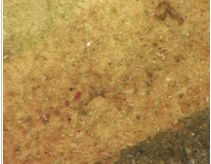
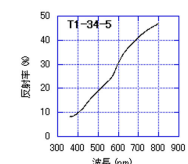
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
ポイントNo.	3	モチーフ	道	色 赤色 推定顔料名 朱か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo. <input type="text"/> 肉眼で赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子確認したことから、朱と推定した。

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		


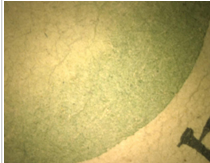
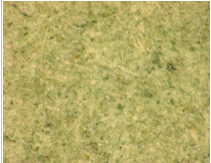
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	4	モチーフ	一里塚	色	黒色	推定顔料名	墨か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で黒色、175倍顕微鏡写真の観察で黒色を確認したことから、墨と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		



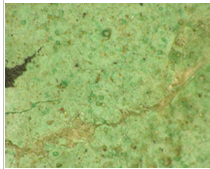
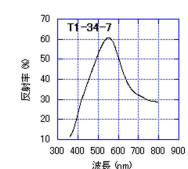
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	5	モチーフ	郡境	色	茶色	推定顔料名	ベンガラか
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で茶色、175倍顕微鏡写真の観察で茶色の粒子を確認したことから、ベンガラと推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		



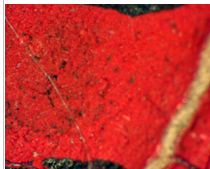
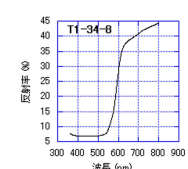
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	6	モチーフ	山	色	薄緑色	推定顔料名	草の汁か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で薄緑色、175倍顕微鏡写真の観察で青色と黄色を確認。可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料とガンボージ又は鬱金を主成分とする染料混色の特徴を示していることから、藍と藤黄の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		


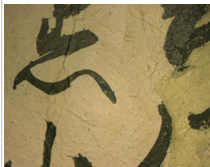
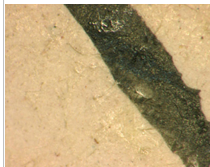
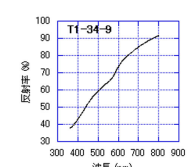
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	7	モチーフ	山	色	緑色	推定顔料名	緑青か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で緑色、175倍顕微鏡写真の観察で緑色の粒子を確認したことから、緑青と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		


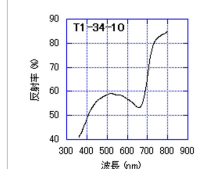
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	8	モチーフ	古城	色	赤色	推定顔料名	朱か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で赤色、175倍顕微鏡写真の観察で赤色の粒子を確認したことから、朱と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		

絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	9	モチーフ	村形(上房郡)	色	薄桃色	推定顔料名	臘脂+胡粉か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で薄桃色、175倍顕微鏡写真の観察で白色と赤色を確認したことから、臘脂と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		

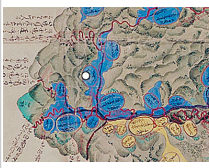
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	10	モチーフ	村形(川上郡)	色	薄青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で薄青色、175倍顕微鏡写真の観察で青色を確認したことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		

絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	11	モチーフ	村形(哲多郡)	色	黄色	推定顔料名	藤黄+胡粉か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で黄色、175倍顕微鏡写真の観察で黄色と白色を確認したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		

絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館			
ポイントNo.	12	モチーフ	村形(阿賀郡)	色	薄青色	推定顔料名	藍+胡粉か
絵図調査日	2008/01/18			DICNo.		肉眼で薄青色、175倍顕微鏡写真の観察で白色と青色を確認したことから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		




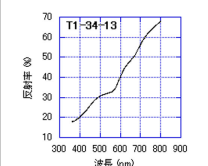
絵図名	T1-34	備中国絵図 寛永年間	所蔵期間	岡山大学附属図書館
-----	-------	------------	------	-----------

ポイントNo.	13	モチーフ	村形(上房郡)
---------	----	------	---------

色	薄赤紫色	推定顔料名	不明
---	------	-------	----

絵図調査日	2008/01/18			
-------	------------	--	--	--

DICNo.		
--------	--	--

絵図(部分)	×25(キーエンス)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし		画像なし		画像なし	
	2008/01/18撮影		2008/01/18撮影		2008/01/18測定		

# 赤外線撮影による調査報告

岡山大学附属図書館蔵 国絵図の赤外線調査概要

東京学芸大学 荒井 経

調査日：2008年1月15日、16日

調査対象：国絵図 T1-5、T1-18、T1-20-1

調査方法：通常光写真と赤外線写真の比較

赤外線写真は、SONY社製CyberShotにIR80フィルターを装着し、night shotモードで撮影した。

写真の見方：

○赤外線撮影による色料判別法

赤外線写真だけでは色料の特定はできないが、例えば対象の「緑」が岩緑青であるのか草汁であるのかを判別するような場合には有効である。

<例> 岩緑青 ⇔ 草汁（藤黄+藍）  
 白群青 ⇔ 藍具（藍+胡粉）

赤外線写真で暗く写る色料…岩緑青～白緑青、岩群青～白群青、墨

赤外線写真で明るく写る色料…有機系色料、朱、丹、黄土、など

○また、従来の赤外線調査は、墨書の判読に使用されることが多い。汚れの中の墨書や下書きの墨書をより見やすくするのに有効である。

今回の調査から：

今回の調査では、蛍光X線分析によって成分元素が測定できたので、赤外線撮影は測定結果をイメージとして補完する役割となった。

例として、T1-5（慶長年間）とT1-20-1（元禄13年）において、山岳表現の差を岩絵の具の使用量の差としてイメージ化することができたといえる。その点に気づかず、T1-18の全体像を撮影しなかったことが悔やまれる。

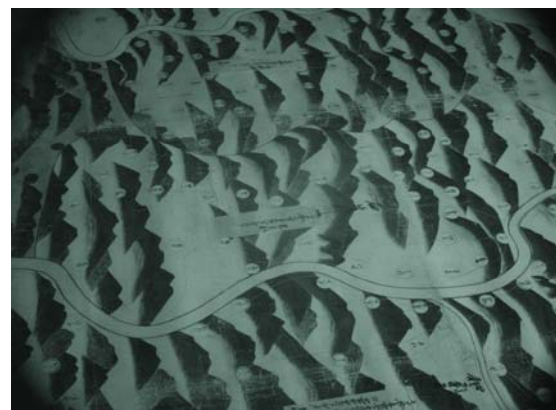
また、今後の調査では、事前調査において簡易な赤外線撮影をしておくことが、蛍光X線分析の測定ポイントの絞込み、延いては調査時間の短縮につながるものと考えられる。

T1-5 国絵図 備前国図 慶長年間



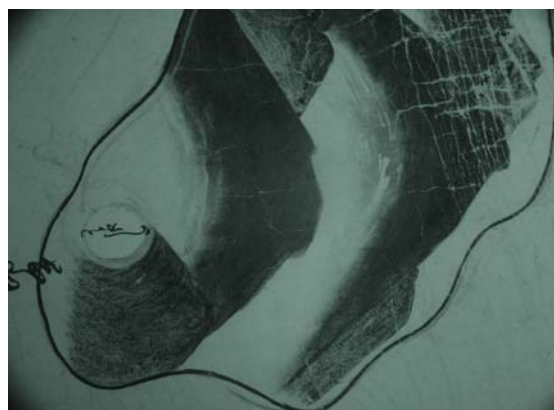
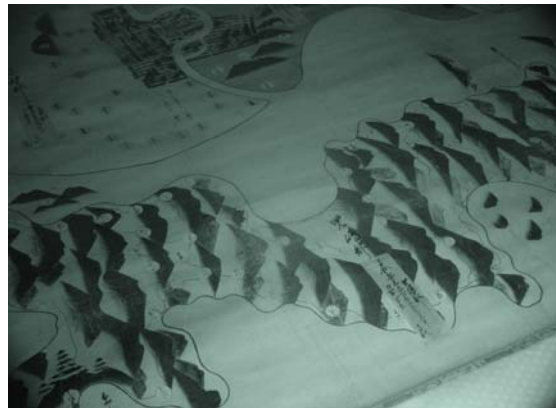
通常光写真

赤外線写真



大面積を占める岩絵の具の群青・緑青





丹のラインにうっすら下書きか？

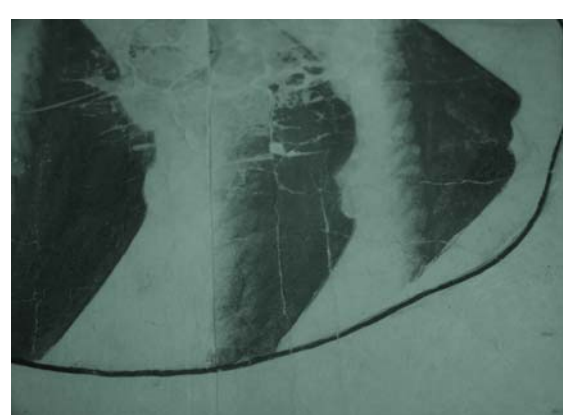


群青の山より緑青の山のほうが黒く見える。緑青の下塗りは白緑青、群青の下塗りは藍具であるため。





山の描き損じ？



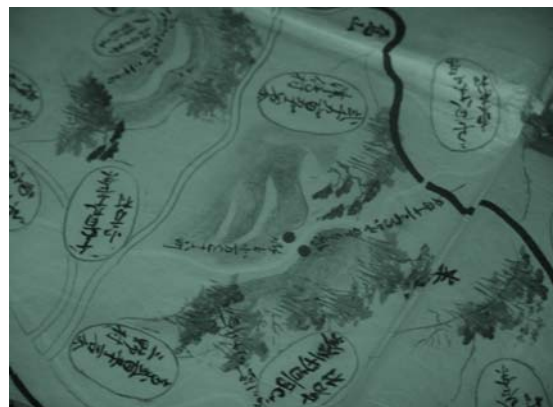
真ん中の山の樹木の点々は草汁のため赤外線に写らない。

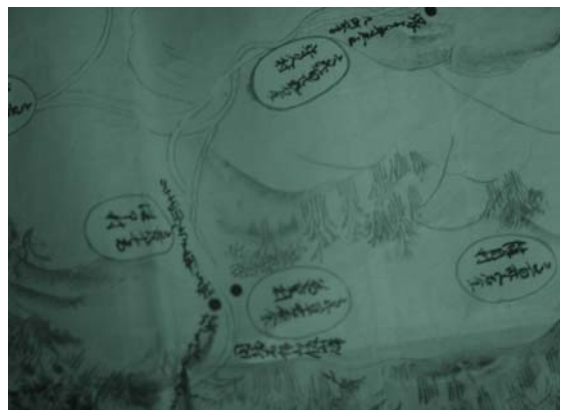
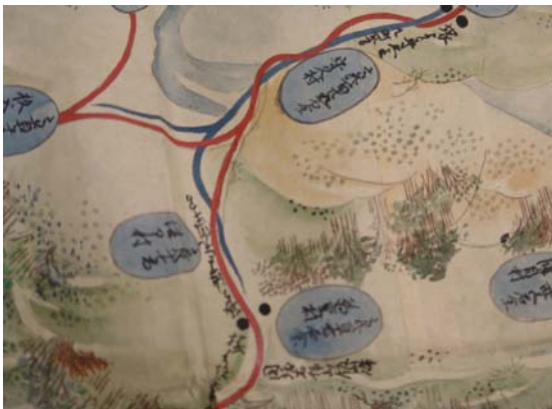
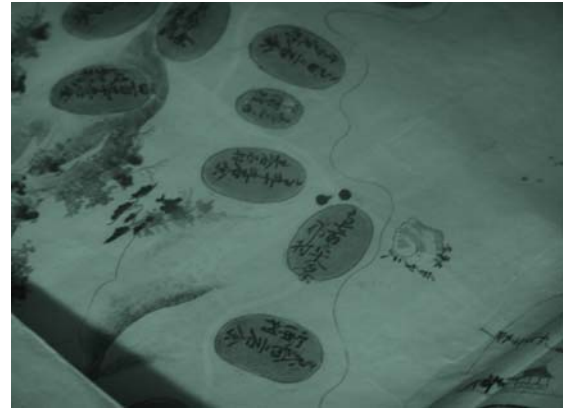
T1-18 国絵図 備前国絵図 元禄13年



通常光写真

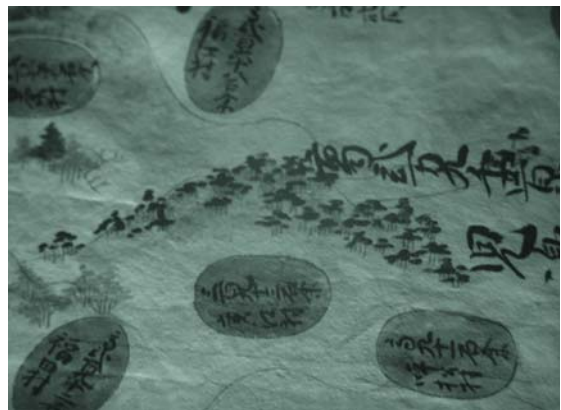
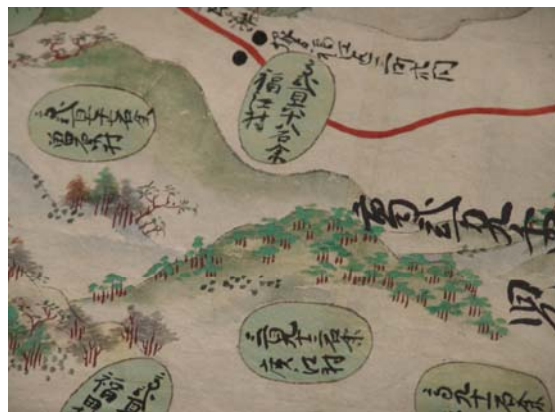
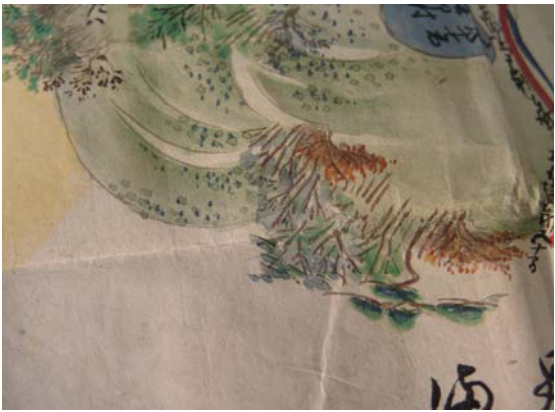
赤外線写真



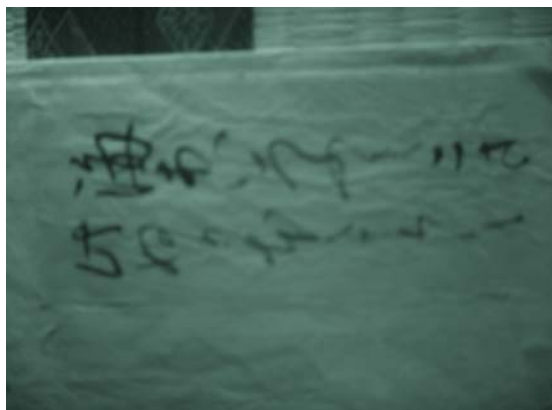
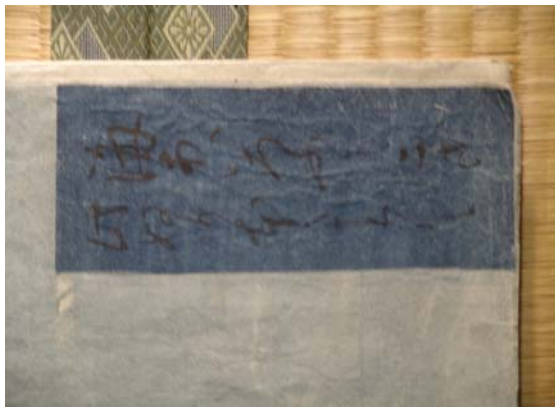




松葉の緑色は緑青、青色は藍系と思われる。



樹幹の茶色に混ぜられている墨が黒く出る。地面の点々は草汁で隅は入っていないようだ。



赤外線調査によって藍色の中の墨書がくっきり読みやすくなる。

### 調査風景



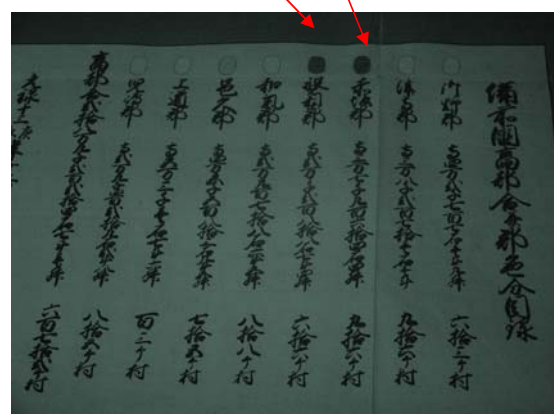
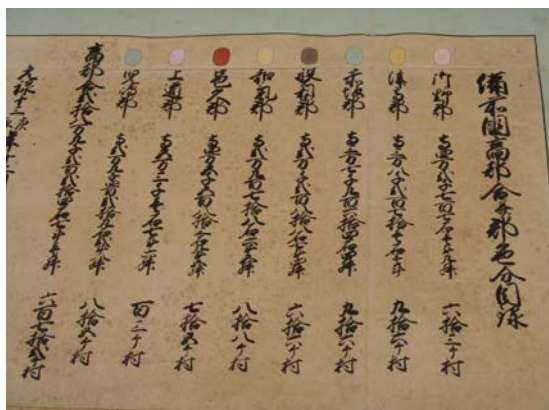
T1-20-1 国絵図 備前国絵図 元禄13年



通常光写真

赤外線写真

丹墨の墨 白緑が赤外線で見える



T1-20-1 国絵図 備前国絵図 元禄13年  
通常光写真

赤外線写真

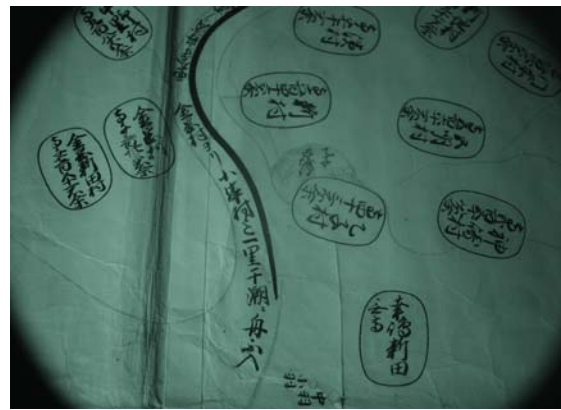
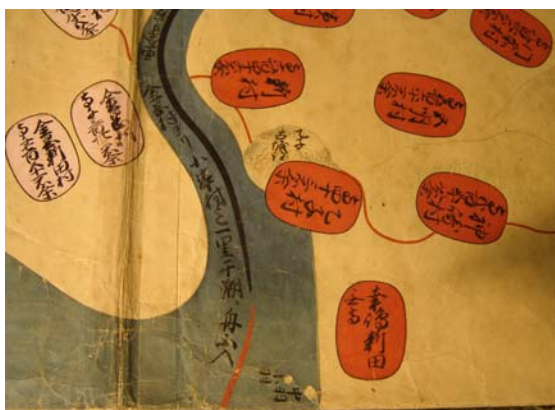


↓白緑系の地色だけがくっきり黒い



通常光写真

赤外線写真



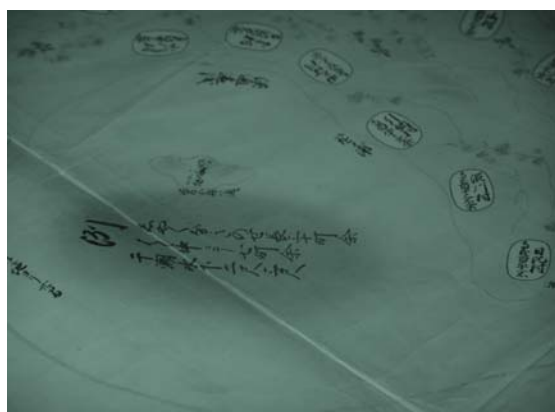
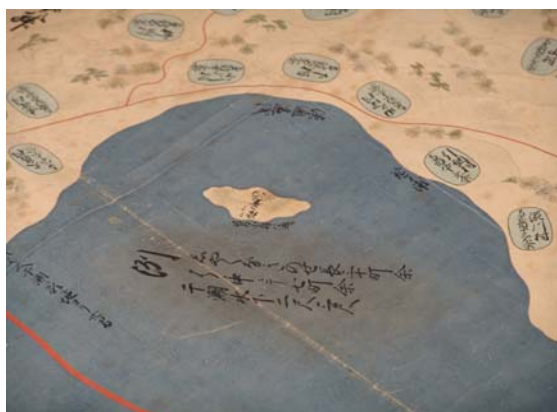
↑村形の朱、白っぽく写る







↑白緑は黒く、藍具は白く写るので、明度が反転している。



薄墨のぼかしで表現された浅瀬がくっきり写っている。